本文

圖書頭 圖書寮主事 記錄課長 庶務課長 編修課長 圖書課長

官報

第七千七百二十一號　明治四十二年三月二十五日　木曜日　印刷局

○法律

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル輸入原料砂糖戻稅法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十二年三月二十四日

內閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂太郎

法律第十二號

輸入原料砂糖戻稅法中左ノ通改正ス

第四條中「明治四十二年三月三十一日ヲ」「明治四十四年七月十六日」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル砂鑛法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十二年三月二十四日

內閣總理大臣　侯爵桂　太郎
農商務大臣　男爵大浦兼武

法律第十三號

砂鑛法

第一條　本法ニ於テ砂鑛ト稱スルハ砂金、砂鐵及砂錫ヲ謂フ金鑛ノ廢鑛又ハ鑛滓ニシテ主務大臣ニ於テ其ノ存在狀態砂金ト類似スト認メタルモノハ之ヲ砂金ト看做ス

第二條　本法ニ於テ砂鑛業ト稱スルハ砂鑛ノ採取及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第三條　本法ニ於テ砂鑛區ト稱スルハ砂鑛權ノ登錄ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂フ

第四條　砂鑛權者ハ砂鑛區內ニ於ケル各種ノ砂鑛ヲ採取スル權利ヲ有ス但シ第六條ノ砂金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　砂鑛區鑛區ト重複スル場合ニ於テハ砂鑛權者及鑛業權者ハ其ノ採取及採掘又ハ試掘ニ付互ニ協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ砂鑛權者又ハ鑛業權者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六條　金鑛ヲ目的トスル鑛業權者ハ其ノ採掘鑛區內ニ存スル砂金ヲ採取スル權利ヲ有ス但シ其ノ鑛區內ニ既ニ存スル砂鑛區ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ鑛業權者ハ砂金ノ採取ニ關シ之ヲ砂鑛權者ト看做ス

第七條　砂鑛權ハ相續、讓渡、抵當權、滯納處分又ハ强制執行ノ目的タルコトヲ得ス

7721 号

第八條　砂鑛權ヲ得ムトスル者ハ願書ニ砂鑛區圖ヲ添ヘテ主務大臣ニ出願スヘシ

第九條　砂鑛出願地他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者ノ承諾ヲ受クヘシ

土地所有者ハ命令ノ定ムル期間内ニ於テ自ラ砂鑛權ノ出願ヲ爲ストキノ外前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第十條　砂鑛出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得但シ主務大臣ニ屆出ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十一條　砂鑛權者ハ砂鑛區ノ增減ヲ出願スルコトヲ得

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ砂鑛區ノ減少ヲ出願セムトスルトキハ抵當權者ノ承諾ヲ受クヘシ

第十二條　土地所有者、地上權者、永小作權者又ハ土地ニ對シ使用ノ權利ヲ有スル者ハ其ノ土地ニ於テ砂鑛ヲ採取セムトスル者ニ對シ相當ノ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第十三條　前條ノ請求權者ハ砂鑛權者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第十四條　砂鑛權者補償金ノ拂渡ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサルトキハ第十二條ノ請求權者ハ砂鑛ノ採取ヲ拒ムコトヲ得

第十五條　補償金又ハ其ノ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ砂鑛權者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十六條　前條ノ裁決アリタルトキハ其ノ求ムル確定セサルトキト雖砂鑛權者ハ裁決ニ依ル補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供託シテ砂鑛ヲ採取スルコトヲ得

第十七條　鑛業法第三章ハ砂鑛業ニ關シ之ヲ準用ス但シ同法第五十六條ニ依ル土地ノ使用ハ左ノ場合ニ限ル

一　洗鑛

二　製鍊所ノ建設

三　洗滌用水路及溜池ノ開設

四　砂鑛原料ノ置場

第十八條　當該官吏臨檢ノ際砂鑛業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ搜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第十九條　權利ヲ有セスシテ砂鑛業ヲ爲シ又ハ詐僞ノ所爲ヲ以テ砂鑛採取ノ許可ヲ受ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　第二十三條ニ於テ準用シタル鑛業法第十條第三項又ハ同法第七十二條ノ命令ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　砂鑛權ノ出願又ハ砂鑛業ノ爲ニ他人ノ土地ニ立入リテ測量又ハ檢查ヲ爲ス場合ニ於テ鑛山監督署長ノ許可ヲ受ケスシテ障害物ヲ除去シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

當該官吏ノ訊問ニ對シ虛僞ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十二條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十三條　鑛業法第五條、第六條、第七條第一項、第二項、第十條、第十一條、第十五條、第十六條、第十九條、第二十條、第二十七條、第三十二條、第三十三條第一項第二項、第三十五條、第三十八條乃至第四十三條、第四十九條、第七十二條、第七十四條、第八十七條乃至第八十九條、第九十一條乃至第九十三條及第百四條ノ規定ハ砂鑛業ニ關シテ之ヲ準用ス

附　則

第二十四條　本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

砂鑛採取法ハ之ヲ廢止ス

第二十五條　砂鑛採取法ニ依ル砂鑛採取ノ許可ハ之ヲ砂鑛權ノ登錄ト看做ス

第二十六條　本法施行前ニ金鑛ヲ目的トスル鑛業ノ出願ヲ爲シタル者第一條第二項ノ砂金ノミヲ目的トスルモノニ付テハ命令ノ定ムル期間内ニ其ノ鑛區ニ付砂鑛權設定ノ登錄ヲ申請スヘシ其ノ登錄アリタルトキハ鑛業權ノ上ニ現ニ存スル權利義務ハ砂鑛權ノ上ニ存續ス

前項ノ鑛業權ニ關シテハ砂鑛權ノ登錄アル迄仍鑛業法ヲ適用ス

第一項ノ鑛業權ニシテ鑛業財團ヲ組成スルモノニ付テハ砂鑛權ノ登錄アリタル後ト雖其ノ財團ノ關係ニ於テハ之ヲ鑛業權ト看做ス

第二十八條　本法施行前砂鑛採取法ニ依リ又ハ本法第一條第二項ノ砂金ニ關シ鑛業法ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十九條　本法施行前砂鑛採取法ニ依リ又ハ本法第一條第二項ノ砂金ニ關シ鑛業法ニ依リテ爲シタル處分ニ對スル訴願、訴訟、判定、裁定又ハ裁決ニ關シテハ各砂鑛採取法又ハ鑛業法ノ規定ニ依ル

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル登錄稅法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十二年三月二十四日

内閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂太郎

法律第十四號

登錄稅法中左ノ通改正ス

第十五條　砂鑛業ニ關シ砂鑛業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　砂鑛權ノ設定

新規登錄　採取區域河床ハ每二里迄其ノ他ハ每十萬坪迄　金十五圓

砂鑛區合併　每一件　金三圓

砂鑛區分割　設定砂鑛區每一箇　金三圓

二　砂鑛權ノ變更

增區　採取區域河床ハ每二里迄其ノ他ハ每十萬坪迄　金十五圓

減區　每一件　金一圓

但シ增區ト同時ニ爲ス減區ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

三　砂鑛權ノ移轉

相續　每一件　金五圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉　每一件　金十五圓

四　抵當權ノ設定

新規登錄　債權金額千分ノ六

砂鑛區ノ合併又ハ分割ノ出願ニ付砂鑛法ニ基キ爲シタル承諾又ハ協定ニ因ル設定　每一件　金五圓

順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更　每一件　金十圓

六　抵當權ノ移轉

相續　每一件　金五圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉　每一件　金十圓

七　滯納處分以外ノ原因ニ因ル砂鑛權又ハ抵當權ノ處分ノ制限　債權金額千分ノ四

八　廢業ニ因ル砂鑛權ノ消滅　每一件　金一圓

九　登錄ノ更正、變更又ハ抹消　每一件　金十錢

債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

附　則

本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前砂鑛採取法ニ依リ砂鑛業ニ關スル出願又ハ屆出ヲ爲シ既ニ手數料ヲ納メタル者ハ砂鑛法ニ依リテ爲ス其ノ事項ノ登錄ニ付更ニ登錄稅ヲ納ムルコトヲ要セス砂鑛法第二十七條第一項ニ依ル登錄ニ付亦同シ

御名御璽

明治四十二年三月二十四日

内閣總理大臣　侯爵桂　太郎

遞信大臣　男爵後藤新平

法律第十五號

遠洋航路補助法

第一條　主務大臣ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員者ハ株主トスル商事會社ニシテ遠洋航路ニ於テ定期航海ニ從事セムトスルモノヲ得但シ補助金額及年限ニ付テハ帝國議會ノ協贊ヲ求ムヘシ

一　歐洲航路

二　北米航路

三　南米航路

四　濠洲航路

本法ニ於テ補助航海ト稱スルハ前項ニ依ル定期航海ヲ謂フ

第二條　補助航海ニ使用スル船舶ハ總噸數三千噸以上ニシテ一時間十二海里以上ノ速力ヲ有シ主務大臣ノ定ムル造船規程ニ合格シ且帝國船籍ニ登錄シタル船齡十五年以内ノ鋼製汽船ニ限ル

本文 7721

船舶ノ速力ハ主務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ算定ス

第三條　外國製造ノ船舶ハ補助航海ニ使用スルコトヲ得但シ帝國船籍ニ登錄ノ際船齡五年以内ノ船舶ニシテ已ムヲ得サル事由ニ因リ其ノ使用ニ關シ主務大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　航海補助金ハ使用船舶總噸數一噸航海里數一千海里ニ付速力一時間十二海里ヲ有スルモノニ對シ五十錢以内、速力一時間一海里ヲ增ス毎ニ其ノ百分ノ十ヲ增シタル金額以内ニ於テ航路ノ狀況ニ應シ之ヲ支給ス但シ船齡五年ヲ超ユル船舶ニ對シテハ一年毎ニ其ノ百分ノ五ヲ遞減ス

外國製造ノ船舶ニ對シテハ前項ノ規定ニ依リ支給スヘキ航海補助金ノ半額ヲ支給ス

特ニ主務大臣ノ認可ヲ得タル設計ニ依リ製造シタル船舶又ハ定期航海ノ開始後五年ヲ經過セサル航路ニ使用スル船舶ニ對シテハ前二項ノ規定ニ依リ支給スヘキ航海補助金ノ算定ニ於テハ航海里數ハ各港間ノ最近航路ニ依リ一噸未滿又ハ一海里未滿ノ端數ハ之ヲ除算ス

第五條　補助航海ニ於ケル旅客、貨物ノ運賃ハ主務大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ定ムヘシ

主務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ種類ヲ指定シ旅客、貨物ノ運賃ヲ低減セシムルコトヲ得

第六條　補助航海ニ使用スル船舶ニハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ郵便物及郵便用品ヲ無賃ニテ搭載シ無線電信ノ通信ニ關スル設備ヲ爲シ且通信事務又ハ航路觀察ノ爲主務大臣ノ派出スル吏員ヲ無賃ニテ乘船セシムヘシ

第七條　補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ定期航海ノ維持ニ必要ナル施設ヲ爲スヘシ

第八條　補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ左ノ割合以内ニ於テ其ノ費用ヲ以テ航海修業生ヲ使用船舶ニ乘組マシムヘシ

總噸數三千噸以上五千噸未滿　四人
總噸數五千噸以上八千噸未滿　五人
總噸數八千噸以上　六人

第九條　補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ外國人ヲ其ノ本店若ハ支店ノ事務員又ハ使用船舶ノ職員ト爲スコトヲ得ス

外國ニ於テ死亡其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ使用船舶ノ職員ニ關員ヲ生シタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ補フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ補助航海ニ從事スル者又ハ船長ヨリ直ニ主務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十條　補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ補助航海ニ關スル收支計算書及營業狀況報告書ヲ提出スヘシ

主務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ補助航海ニ從事スル者ノ本店、支店、代理店又ハ使用船舶ニ吏員ヲ派遣シ其ノ收支計算及營業狀況ヲ監査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ補助航海ニ從事スル者ハ當該吏員ノ求ムル所ニ從ヒ業務上一切ノ事項ヲ開申シ帳簿其ノ他一切ノ文書ヲ檢閱ニ供スヘシ

第十一條　主務大臣ハ相當ノ補償金額ヲ定メ補助航海ニ使用スル船舶ヲ公用ノ爲收用又ハ使用スルコトヲ得

補助航海ニ使用シタル船舶ニ付テハ最終ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三年間仍前項ノ規定ヲ適用ス

補償金額ニ對シ不服アル者ハ收用又ハ使用ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ出訴ハ船舶ノ收用又ハ使用ヲ停止セス

第十二條　補助航海ニ使用スル船舶ハ航海補助金ヲ受ケテ航海スル期間及最終ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ外國人ニ讓渡シ、貸渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得但シ其ノ船舶ニ對シ支給シタル航海補助金ヲ償還シタルトキ、天災其ノ他ノ不可抗力ニ因リ航行ニ堪ヘサルトキ又ハ主務大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　左ノ事項ハ主務大臣之ヲ定ム

一　補助航海ノ起點、終點及寄港地
二　使用船舶ノ數、總噸數、速力、船齡及代船ニ關スル事項
三　航海度數、航海日數及發着日時ニ關スル事項
四　航海補助金ノ支給方法
五　義務ノ不履行ニ基ク航海補助金ノ減給、停止、廢止、償還又ハ其ノ他ノ處分ニ關スル事項

第十四條　主務大臣ハ補助航海ニ從事スル者ノ義務ニ屬スル事項ニ付テハ直ニ其ノ代理人又ハ船長ニ命令ヲ下スコトヲ得

第十五條　第十一條ノ規定ニ依ル船舶ノ收用若ハ使用ヲ拒ミタル者又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ且當該船舶ニ對シ支給シタル航海補助金ニ相當スル金額ヲ償還セシム

前項償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第十六條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附　則

本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

航海奬勵法ハ之ヲ廢止ス但シ本法公布ノ際同法ニ依リ航海奬勵金ヲ受クル資格ヲ有スル船舶及同法ノ適用ヲ受クル爲製造中ノ船舶ニ關シテハ明治四十七年九月三十日迄同法ニ依リ航海奬勵金ヲ受クルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ航海奬勵金ヲ受ケタル船舶ニ對シテハ本法ニ依リ航海補助金ヲ支給セス

明治三十二年九月三十日以前ニ於テ帝國船籍ニ登錄シタル外國製造ノ船舶ニ關シテハ第四條第二項ノ規定ヲ適用セス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル造船奬勵法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十二年三月二十四日

內閣總理大臣　侯爵桂　太郎
遞信大臣　男爵後藤新平

法律第十六號

造船奬勵法中左ノ通改正ス

第二條中「鐵製又ハ」ヲ削リ「七百噸」ヲ「一千噸」ニ改ム

第三條中「總噸數七百噸以上一千噸未滿ノ船舶ニ在テハ船體總噸數一噸ニ付金十二圓、一千噸以上ノ船舶ニ在テハ一噸ニ付金二十圓ヲ支給シ」ヲ「船體總噸數一噸ニ付金十一圓乃至金二十二圓ノ範圍內ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ支給シ」ニ改ム

第四條中「船體及機關」ヲ「船體、機關及艤裝品」ニ改ム

第五條　詐僞ノ所爲ヲ以テ造船奬勵金ヲ受ケタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役及二百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ且奬勵金ニ相當スル金額ヲ償還セシム

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一項ノ償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第六條中「數罪俱發ヲ」ヲ「併合罪ニ」改ム

第八條　此ノ法律ハ明治四十三年一月一日ヨリ十年間之ヲ施行ス

附　則

本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法公布前認許證書ノ交付ヲ申請シ本法施行前其ノ交付ヲ受ケ製造ニ著手シタル船舶ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

第四條中艤裝品ニ關スル規定ハ本法施行ノ際製造中ノ船舶ニ關シテハ之ヲ適用セス

○勅令

朕稅務監督局官制中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十二年三月二十四日

內閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂太郎

勅令第三十三號

稅務監督局官制中左ノ通改正ス

第二條中「五百七十四人」ヲ「五百六十七人」ニ「二百十五人」ヲ「二百五人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕稅務署官制中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十二年三月二十四日

內閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂太郎

勅令第三十四號

稅務署官制中左ノ通改正ス

第二條中「七千百二十九人」ヲ「六千九百五人」ニ「三百七十五人」ヲ「三百五十五人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○省令

內務省令第八號

明治四十一年法律第三號ハ沖繩縣ニ府縣制施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年三月二十五日　內務大臣　法學博士男爵平田東助

大藏省令第十三號

明治三十四年大藏省令第六號中名古屋本金庫ノ次ヘ金澤本金庫ヲ加フ

明治四十二年三月二十五日　大藏大臣　侯爵桂太郎

文部省令第十號

明治三十七年文部省令第十三號東京外國語學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度竝研究生、選科生及專修科ニ關スル規程中改正スルコト左ノ如シ

明治四十二年三月二十五日　文部大臣　小松原英太郎

第三條ノ學科目及其ノ程度表中「正科語學」ノ右ニ左ノ一欄ヲ加フ

倫理	一	一	一	一	一	一

同表中「計」ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

計	二九 三〇	三〇 三一	三一	二九 三〇	三〇 三一	三一

○告示

鐵道院告示第十二號

明治四十一年九月遞信省告示第八百八號ハ本月三十一日限リ廢止ス

明治四十二年三月二十五日　鐵道院總裁　男爵後藤新平

內務省告示第三十五號

一　四十二年大改正　物識天狗　番附百種　一册　大阪市南區北炭屋町四十九番屋敷　岡本增次郎　發行

右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ出版法第十九條ニ依リ明治四十二年三月二十四日發賣頒布禁止及刻版竝印本差押ノ處分ヲ爲シタリ

明治四十二年三月二十五日　內務大臣　法學博士男爵平田東助

文部省告示第九十一號

栃木縣上都賀郡鹿沼町ニ農業學校規程乙種程度ニ依リ上都賀郡立乙種農林學校ヲ設置シ明治四十二年四月ヨリ開校ノ件認可セリ

明治四十二年三月二十五日　文部大臣　小松原英太郎

文部省告示第九十二號

京都府京都市上京區吉田町ニ京都市立繪畫專門學校ヲ專門學校令ニ依リ設置シ明治四十二年四月ヨリ開校ノ件認可セリ

明治四十二年三月二十五日　文部大臣　小松原英太郎

文部省告示第九十三號

德島縣德島市ニ徒弟學校規程ニ依リ德島縣立工業學校附設職工徒弟學校ヲ設置シ明治四十二年四月ヨリ開校ノ件認可セリ

明治四十二年三月二十五日　文部大臣　小松原英太郎

文部省告示第九十四號

廣島縣深安郡福山町ニ町立福山高等女學校ヲ設置シ明治四十二年四月ヨリ開校ノ件認可セリ

明治四十二年三月二十五日　文部大臣　小松原英太郎

文部省告示第九十五號

長野縣上水內郡三水村ニ農業學校規程乙種程度ニ依リ長野縣上水內郡組合立北部農學校ヲ設置シ明治四十二年四月ヨリ開校ノ件認可セリ

明治四十二年三月二十五日　文部大臣　小松原英太郎

文部省告示第九十六號

千葉縣東葛飾郡松戶町ニ設置スル私立松戶中學校ヲ明治四十二年三月三十一日限廢止ノ件認可セリ

明治四十二年三月二十五日　文部大臣　小松原英太郎

文部省告示第九十七號

千葉縣東葛飾郡松戶町ニ專門學校規程ニ依リ千葉縣立園藝專門學校ヲ設置シ明治四十二年四月ヨリ開校ノ件認可セリ

明治四十二年三月二十五日　文部大臣　小松原英太郎

農商務省告示第百五號

明治四十二年三月十五日左記入漁ニ關スル事項ヲ免許漁業原簿ニ登錄セリ

明治四十二年三月二十五日　農商務大臣　男爵大浦兼武

漁業ノ種類及名稱	漁獲物ノ種類	漁業時期
繰網漁業（一名まかせ網）	鯔、しゆくち、にぶな、鯽、鱸、石首魚	自一月一日至十二月三十一日
はだら繰網漁業	はだら	自九月一日至翌年三月三十一日
小繰網漁業	鱸、にぶな、せいご	自一月一日至十二月三十一日
潟出網漁業	鯔、しゆくち、にぶな、鯽、海鯽、鱸、せいご	同
歩行曳網漁業（一名机曳網）	にぶな、鯔、しゆくち、鰕、蟹	同
荒目鮟鱇網漁業	鯛、石首魚、魴、太刀魚、鰈、牛舌魚、烏賊	同
鰕鮟鱇網漁業	鰕	同
あみ鮟鱇網漁業	あみ	同
張網漁業	鰕、にぶな、牛舌魚	同
鯔刺網漁業	鯔、しゆくち	自十月一日至翌年三月三十一日
鱸刺網漁業	鱸	自一月一日至十二月三十一日

船打投網漁業	鯔、しゆくち、にぶな、鯽、鱸、海鯽	同
歩行投網漁業	鯔、しゆくち、にぶな、せいご、沙魚	同
踏揚網漁業（一名平押網）	鯔、しゆくち、にぶな、せいご、沙魚、鰻、鰕	同
歩行押網漁業	鰕、あみ、蟹、牛舌魚、鰈、鯒、沙魚	自三月一日至十二月三十一日
後揺網漁業	牛舌魚、鯒、鰕、蟹	自三月一日至十一月三十日
四手網漁業	にぶな、石首魚、鰻、沙魚、鰕	自一月一日至十二月三十一日
鰻揺漁業	鰻	同
鰻手掬漁業	鰻	同
沙魚歩行掘漁業	沙魚	同
わらすぼ歩行掘漁業	わらすぼ	同
蝤歩行掘漁業	穴蝤	同
えやこ歩行掘漁業	えやこ	同
蟹歩行捕漁業	蟹	同
むつごろう漁業	むつごろう	同
辛螺漁業	辛螺	同
玉珧漁業	玉珧	同
牡蠣漁業	牡蠣	同
蟶漁業	蟶	同
海茸介漁業	海茸介	同
みろくかい漁業	みろくかい	同
灰介漁業	灰介	同
蛤漁業	蛤	同
うばかい漁業	うばかい	同
蜊漁業	蜊	同
からすかい漁業	からすかい（方言かたしぼりヲ含ム）	同
女冠者漁業	女冠者	同

登錄番號　第三一四號
入漁區域　福岡縣三池郡三川村ノ四ッ山ヨリ筑後川ニ至ル間ノ地先免許番號第八五〇號ノ漁場
入漁權者ノ代表者　熊本縣玉名郡有明村、有明村漁業組合

磯建網漁業	磯魚	自一月一日至十二月三十一日
海鼠漁業	海鼠	同

登錄番號　第三一五號
入漁區域　長崎縣北松浦郡福島村ノ喜內瀬、里原、鍋串、土谷ノ五箇免ノ地先免許番號第四九〇號ノ漁場
入漁期間　免許番號第四九〇號ノ免許期間
入漁料　漁獲高十分ノ二
其他ノ權利義務事項　入漁者ハ波多津浦居住ノ組合員ニ限ルモノトス
入漁權者　佐賀縣西松浦郡波多津村、波多津浦漁業組合

繰網漁業　鱸、鯔、せいご　自十月一日至翌年四月三十日
登錄番號　第三一六號
入漁區域　佐賀縣西松浦郡西山代村ノ地先免許番號第三二四號ノ漁場
入漁期間　免許番號第三二四號ノ免許期間
入漁料　漁獲高十分ノ二
入漁權者　佐賀縣西松浦郡波多津村、波多津浦漁業組合

鮑漁業	鮑	自一月一日至十二月三十一日
蠑螺漁業	蠑螺	同
海鼠漁業	海鼠	同
いぎす漁業	いぎす	自三月一日至八月三十一日
和布漁業	和布	自二月一日至七月三十一日

登錄番號　第三一七號
入漁區域　大分縣東國東郡武藏町大字糸原ノ地先免許番號第九五九號ノ漁場
其他ノ權利義務　いぎす漁業ノ漁法ハ船採ニ限リ和布漁業ノ時期ハ毎年漁期前ニ專用權者ト協議ノ上定ムルコト、入漁者ノ數ハ十五名ヲ超ユヘカラス
入漁權者　大分縣東國東郡武藏町大字內田、古市內田漁業組合

棒受網漁業　鰛、鯵、鯖　自八月一日至翌年二月末日
登錄番號　第三一八號
入漁區域　宮崎縣東臼杵郡門川村ノ沖合免許番號第三七七號ノ漁場內
入漁期間　免許番號第三七七號ノ免許期間
入漁權者ノ代表者　宮崎縣東臼杵郡伊形村大字土々呂、土々呂漁業組合

棒受網漁業　鰛、鯖、鯵　自八月一日至翌年一月三十一日
登錄番號　第三一九號
入漁區域　宮崎縣東臼杵郡恒富村丸ケ島初瀬川塚ヨリ百八十度ノ方位百二十五間ノ所ヨリ東海村南浦村界火打崎ニ至ル間ノ地先免許番號第三七四號ノ漁場
入漁期間　免許番號第三七四號ノ免許期間
入漁權者ノ代表者　宮崎縣東臼杵郡伊形村大字土々呂、土々呂漁業組合

棒受網漁業　鰛、鯵、鯖　自八月一日至十二月三十一日
登錄番號　第三二〇號
入漁區域　宮崎縣東臼杵郡恒富村沖田川尻クロイソヨリ丸ケ島初瀬川塚ヨリ百八十度ノ方位百二十五間ノ所ニ至ル間ノ地先免許番號第三七六號ノ漁場
入漁期間　免許番號第三七六號ノ免許期間
入漁權者ノ代表者　宮崎縣東臼杵郡南浦村大字島野浦、島野浦漁業組合

棒受網漁業　鰛、鯖、鯵　自八月一日至翌年二月末日
登錄番號　第三二一號
入漁區域　宮崎縣東臼杵郡伊形村ノ沖合免許番號第三七五號ノ漁場
入漁期間　免許番號第三七五號ノ免許期間
入漁權者ノ代表者　宮崎縣東臼杵郡南浦村大字島野浦、島野浦漁業組合

棒受網漁業　鰛、鯖、鯵　自八月一日至翌年二月末日
登錄番號　第三二二號
入漁區域　宮崎縣東臼杵郡伊形村ノ沖合免許番號第三七五號ノ漁場
入漁期間　免許番號第三七五號ノ免許期間
入漁權者ノ代表者　宮崎縣東臼杵郡岡富村大字方財島、方財島漁業組合

棒受網漁業　鰛、鯵、鯖　自八月一日至十二月三十一日
登錄番號　第三二三號
入漁區域　宮崎縣東臼杵郡恒富村沖田川尻クロイソヨリ丸ケ島初瀬川塚ヨリ百八十度ノ方位百二十五間ノ所ニ至ル間ノ地先免許番號第三七六號ノ漁場
入漁期間　免許番號第三七六號ノ免許期間
入漁權者　宮崎縣東臼杵郡門川村、門川村漁業組合

棒受網漁業　鰛、鯖、鯵　自八月一日至翌年二月末日
登錄番號　第三二四號
入漁區域　宮崎縣東臼杵郡伊形村ノ沖合免許番號第三七五號ノ漁場
入漁期間　免許番號第三七五號ノ免許期間
入漁權者　宮崎縣東臼杵郡門川村、門川村漁業組合

棒受網漁業　鰛、鯵、鯖　自八月一日至翌年二月末日
登錄番號　第三二五號
入漁區域　宮崎縣東臼杵郡門川村ノ沖合免許番號第三七七號ノ漁場內
入漁期間　免許番號第三七七號ノ免許期間
入漁權者ノ代表者　宮崎縣東臼杵郡岡富村大字方財島、方財島漁業組合

棒受網漁業　鰛、鯖、鯵　自八月一日至翌年一月三十一日
登錄番號　第三二六號
入漁區域　宮崎縣東臼杵郡恒富村丸ケ島初瀬川塚ヨリ百八十度ノ方位百二十五間ノ所ヨリ東海村南浦村界火打崎ニ至ル間ノ地先免許番號第三七四號ノ漁場
入漁期間　免許番號第三七四號ノ免許期間
入漁權者　宮崎縣東臼杵郡門川村、門川村漁業組合

棒受網漁業　鰛、鯖、鯵　自八月一日至翌年二月末日
登錄番號　第三二七號
入漁區域　宮崎縣東臼杵郡南浦村大字浦尻ノ地先免許番號第三七八號ノ漁場
入漁期間　免許番號第三七八號ノ免許期間
入漁權者ノ代表者　宮崎縣東臼杵郡南浦村大字島野浦、島野浦漁業組合

棒受網漁業　鰛、鯖、鯵　自八月一日至翌年一月三十一日
登錄番號　第三二八號
入漁區域　宮崎縣東臼杵郡恒富村丸ケ島初瀬川塚ヨリ百八十度ノ方位百二十五間ノ所ヨリ東海村南浦村界火打崎ニ至ル間ノ地先免許番號第三七四號ノ漁場
入漁期間　免許番號第三七四號ノ免許期間
入漁權者ノ代表者　宮崎縣東臼杵郡南浦村大字島野浦、島野浦漁業組合

縦止棒受網漁業　鯵、鯖　自六月一日至十二月三十一日
登錄番號　第三二九號
入漁區域　神奈川縣足柄下郡土肥村地先第一三二四號免許漁場
入漁權者　神奈川縣足柄下郡眞鶴村、眞鶴村漁業組合

磯建網漁業	龍蝦、磯魚	自一月一日至十二月三十一日
縦止棒受網漁業	鯵、鯥、鯖、鰛	自六月一日至十二月三十一日
鯛底曳網漁業	鯛	自三月一日至七月三十一日

登錄番號　第三三〇號
入漁區域　神奈川縣足柄下郡福浦村地先第一三二八號免許漁場
入漁權者　神奈川縣足柄下郡眞鶴村、眞鶴村漁業組合

第7721号　本文

第7721号　本文

現名稱	現在位置	改稱	移轉位置
大阪北野郵便局	大阪市北區角田町	大阪芝田町郵便局	大阪市北區北野芝田町（大阪局集配區內）
大阪梅田町郵便局	大阪市北區梅田町	大阪出入橋郵便局	大阪市北區西梅田町（同）

遞信省告示第三百七十四號

本日限リ左記郵便局ヲ廢止ス但シ當該局ニ於テ取扱ヒタル事務ハ下記郵便局之ヲ承繼ス

明治四十二年三月二十五日　遞信大臣　男爵後藤新平

名稱	位置	承繼局名
轟鑛山郵便局	北海道後志國余市郡赤井川村	馬群別郵便局

遞信省告示第三百七十五號

本月二十六日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年三月二十五日　遞信大臣　男爵後藤新平

名稱	位置	名稱	位置
土居郵便局	福岡縣嘉穗郡桂川村	母戀郵便局	北海道膽振國室蘭郡室蘭町
藏本郵便局	徳島縣名東郡加茂名村		

遞信省告示第三百七十六號

本日限リ左記電信取扱所ニ於ケル電報配達事務ヲ廢止ス

明治四十二年三月二十五日　遞信大臣　男爵後藤新平

名稱	位置
藏本電信取扱所	徳島縣名東郡加茂名村

遞信省告示第三百七十七號

本月二十六日ヨリ左記郵便局ニ郵便物集配事務ヲ開始ス

明治四十二年三月二十五日　遞信大臣　男爵後藤新平

名稱	位置	名稱	位置
和寒郵便局	北海道天鹽國上川郡劍淵村	歌笛郵便局	北海道日高國三石郡三石村

遞信省告示第三百七十八號

本月二十六日ヨリ左記三等郵便局ヲ設置ス

明治四十二年三月二十五日　遞信大臣　男爵後藤新平

名稱	位置
山部郵便局	北海道石狩國空知郡下富良野村字山部市街地

遞信省告示第三百七十九號

明治三十六年三月勅令第四十一號ニ基ク請願ニ依リ本月二十六日ヨリ左記郵便局ニ電報配達事務ヲ開始ス

明治四十二年三月二十五日　遞信大臣　男爵後藤新平

名稱	位置
湯温海郵便局	山形縣西田川郡温海村

遞信省告示第三百八十號

本月二十七日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年三月二十五日　遞信大臣　男爵後藤新平

名稱	位置
保土ケ谷郵便局	神奈川縣橘樹郡保土ケ谷町

遞信省告示第三百八十一號

本月二十六日限リ左記電信取扱所ニ於ケル電報配達事務ヲ廢止ス

明治四十二年三月二十五日　遞信大臣　男爵後藤新平

名稱	位置
保土ケ谷電信取扱所	神奈川縣橘樹郡保土ケ谷町

遞信省告示第三百八十二號

本月三十一日ヨリ左記三等郵便局ヲ設置ス

明治四十二年三月二十五日　遞信大臣　男爵後藤新平

名稱	位置	名稱	位置
西水引郵便局	鹿兒島縣薩摩郡西水引村	細田郵便局	宮崎縣南那珂郡細田村

遞信省告示第三百八十三號

本月三十一日ヨリ左記郵便局ニ郵便物集配事務ヲ開始ス

明治四十二年三月二十五日　遞信大臣　男爵後藤新平

名稱	位置
奥村郵便局	沖繩縣國頭郡國頭村

遞信省告示第三百八十四號

本月三十一日ヨリ左記三等郵便局ヲ設置ス但シ郵便物集配事務ヲ取扱ハス

明治四十二年三月二十五日　遞信大臣　男爵後藤新平

名稱	位置
鹿兒島沖ノ村郵便局	鹿兒島市鹽屋村（鹿兒島局集配區內）
川尻郵便局	鹿兒島縣揖宿郡頴娃村（頴娃局集配區內）
中村郵便局	鹿兒島縣鹿兒島郡谷山村（谷山局集配區內）

遞信省告示第三百八十五號

明治三十六年三月勅令第四十一號ニ基ク請願ニ依リ本月三十一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十二年三月二十五日　遞信大臣　男爵後藤新平

名稱	位置
羽川郵便局	秋田縣由利郡下濱村

遞信省告示第三百八十六號

本月二十六日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

明治四十二年三月二十五日　遞信大臣　男爵後藤新平

名稱	位置	名稱	位置
瀬田郵便局	滋賀縣栗太郡瀬田村	北方郵便局	福岡縣企救郡企救村

遞信省告示第三百八十七號

明治三十三年八月遞信省告示第三百十四號電話呼出地域中左ノ通追加シ本月二十六日ヨリ施行ス

明治四十二年三月二十五日　遞信大臣　男爵後藤新平

「近江國滋賀郡堅田町大字本堅田」ノ項ノ次ニ

近江國栗太郡瀬田村大字神領、同橋本

近江國滋賀郡石山村大字鳥居川

遞信省告示第三百八十八號

明治四十一年十二月遞信省告示第千三百六十一號帝國ト外國郵便爲替ヲ交換スル國等ヲ示ス表「第二　電信爲替」ノ部附註ノ項瑞典ニ於ケル電信爲替取扱局中「シェルレフテオ」ノ次ニ「スクルプ(Skurup)」ヲ加ヘ來四月一日ヨリ施行ス

明治四十二年三月二十五日　遞信大臣　男爵後藤新平

遞信省告示第三百八十九號

本月二十八日ヨリ左記三等郵便局ヲ設置ス但シ郵便物集配事務ヲ取扱ハス

明治四十二年三月二十五日　遞信大臣　男爵後藤新平

名稱	位置
横濱南吉田町郵便局	横濱市南吉田町（横濱局集配區內）

遞信省告示第三百九十號

本月二十六日ヨリ左記郵便局ニ電話交換業務ヲ開始シ電報規則第七十五條ニ依ル電話加入者ノ託送電報ヲモ取扱フ

明治四十二年三月二十五日　遞信大臣　男爵後藤新平

名稱	位置	名稱	位置
興津郵便局	靜岡縣庵原郡興津町	谷山郵便局	鹿兒島縣鹿兒島郡谷山村

正誤

本月十八日遞信省告示第三百二十一號中名古屋上島町ハ名古屋上畠町ノ誤　遞信省參事官

昨二十四日大藏省訓令第六號專賣局作業職員歲出科目中五八六頁下段節ノ欄三行其ハ他ハ其他ノ誤

○敍任及辭令

○明治四十二年三月二十四日

任陸軍一等軍醫正　陸軍二等軍醫正正六位勲四等功四級　中川十全

任陸軍二等軍醫正　陸軍三等軍醫正從六位勲四等功四級　松村虎之助

任陸軍二等軍醫正　陸軍三等軍醫正從六位勲四等功四級醫學博士　西郷吉彌

任陸軍二等軍醫正　陸軍三等軍醫正從六位勲四等功四級　山田弘倫

任陸軍二等軍醫正　陸軍三等軍醫正從六位勲四等功四級　肥田七郎

任陸軍三等軍醫正　陸軍一等軍醫正七位勲五等功五級　中村四郎

任陸軍三等軍醫正　陸軍一等軍醫從六位勲四等功五級　仲田幸次郎

任岐阜縣郡上郡長　岐阜縣本巣郡長正七位勲六等　豐田幾次郎

敍高等官六等

任岐阜縣本巣郡長　岐阜縣安八郡長正七位　後藤又次郎

敍高等官六等

任岐阜縣安八郡長　岐阜縣加茂郡長從六位勲五等　石田英壽

敍高等官五等

任岐阜縣加茂郡長　岐阜縣警部　古市亨

敍高等官八等

御用有之伊太利國ヘ被差遣　從六位勲六等　秦佐八郎

依願免本官（以上三月二十四日內閣）　岐阜縣郡上郡長　市原章

鐵道院技師　鵜飼賢一

富山建設事務所所管線路區內直江津在勤ヲ命ス（三月二十三日鐵道院）　東宮武官子爵　田村丕顯

海軍工機學校ヘ被差遣（三月二十四日宮內省）　內務技師工學博士　關野貞

山口縣和歌山縣奈良縣滋賀縣愛知縣ヘ出張ヲ命ス

岐阜縣事務官　松村才知

府縣制第六十五條第三項ニ依リ岐阜縣參事會員ヲ命ス

三級俸下賜　岐阜縣安八郡長　石田英壽

四級俸下賜　岐阜縣郡上郡長　豐田幾次郎

（各通）　岐阜縣郡上郡長　市原章

岐阜縣本巣郡長　後藤又次郎

五級俸下賜　岐阜縣加茂郡長　古市亨

六級俸下賜（以上三月二十四日內務省）　陸軍砲兵大尉　長澤直三郎

（各通）　陸軍砲兵大尉　門田潔

大阪砲兵工廠附被免野砲兵第十八聯隊附被仰付

參謀本部附勤務ヲ命ス　野砲兵第二十聯隊附陸軍砲兵中尉　田邊鐵彌

免本職第一師團經理部附被仰付　第一師團經理部員陸軍三等主計　宮崎源治

補參謀本部附　陸軍三等主計　中熊直生

免本職步兵第一聯隊附被仰付　步兵第五十七聯隊附陸軍三等主計　進藤初太郎

補步兵第五十七聯隊附　陸軍三等主計　加賀辰造

免本職東京砲兵工廠附被仰付　步兵第三聯隊附陸軍三等主計　男澤高富

補步兵第三聯隊附　陸軍二等主計　須田倉四郎

免本職陸軍獸醫學校附被仰付　東京癈兵院附陸軍三等主計　小野義敏

野砲兵第十八聯隊附被免　陸軍二等主計　落合六四郎

補東京癈兵院附　陸軍二等主計　落合六四郎

免本職習志野衞戍病院附被仰付　習志野衞戍病院附陸軍三等主計　苅部淸之助

免本職補習志野衞戍病院附　參謀本部附陸軍三等主計　本多鉞三

東京第一衞戍病院附被免　陸軍三等主計　雲善太郎

補第一師團經理部員　陸軍三等主計　雲善太郎

免本職東京第二衞戍病院附被仰付　東京第二衞戍病院附陸軍三等主計　杉木諒

野砲兵第一聯隊附被免　陸軍二等主計　船戶俊一

補東京第二衞戍病院附　陸軍二等主計　船戶俊一

野砲兵第十五聯隊附被免國府臺衞戍病院附被仰付　陸軍三等主計　岩淵武二

野砲兵第二聯隊附被免步兵第四聯隊附被仰付　陸軍三等主計　廣瀨正記

免本職軍馬補充部鍛冶谷澤支部附被仰付　步兵第二十九聯隊附陸軍三等主計　宮崎覺市

第7721号　本文

免本職仙臺衞戍病院附被仰附

免本職歩兵第三十二聯隊附被仰付

補歩兵第二十九聯隊附

歩兵第六十八聯隊附陸軍二等主計　中村乙治

函館要塞司令部附陸軍二等主計　佐久與一

（各通）

免本職第三師團經理部附被仰付

第三師團經理部附被免

補歩兵第六十八聯隊附

免本職補歩兵第六聯隊附

免本職補歩兵第五十一聯隊附

補歩兵第三十三聯隊附

第三師團經理部附被免

補第三師團經理部部員

歩兵第三十七聯隊附陸軍二等主計　古屋野和吉

大阪砲兵工廠附陸軍三等主計　安藤才平

（各通）

免本職第四師團經理部附被仰付

免本職補歩兵第三十七聯隊附

第四師團經理部附被仰付

補第四師團經理部部員

第四師團經理部附陸軍二等主計　佐藤榮太郎

免本職補歩兵第三十七聯隊附

第四師團經理部附被免

補第四師團經理部部員

第四師團經理部附陸軍二等主計　羽野福三郎

野砲兵第十聯隊附被免第十師團經理部附被仰付

免本職騎兵第十聯隊附被免

補歩兵第四十聯隊附

補歩兵第二十聯隊附

免本職補第四師團經理部附被仰付

第四師團經理部附陸軍二等主計　森　初治郎

免本職歩兵第二十一聯隊附被仰付

補歩兵第四十聯隊附被仰付

補歩兵第二十聯隊附

免本職補第四師團經理部附被仰付

第四師團經理部附陸軍二等主計　堀江元次郎

免本職歩兵第二十一聯隊附被免

補歩兵第四十聯隊附

補歩兵第二十聯隊附

免本職補第四師團經理部附被仰付

第四師團經理部附陸軍二等主計　建部　恆

免本職歩兵第二十聯隊附被仰付

第十師團經理部附被免歩兵第二十二聯隊附被仰付

免本職補第十師團經理部附被仰付

第四師團經理部附陸軍二等主計　藤田　清丸

免本職歩兵第二十聯隊附被免

補第十師團經理部附被免

補第四師團經理部部員

第四師團經理部附陸軍二等主計　高原　金治

第五師團經理部附被免歩兵第二十二聯隊附被仰付

免本職補第十師團經理部附被仰付

第四師團經理部附陸軍二等主計　佐々木政一

廣島陸軍兵器支廠附被免第五師團經理部附被仰付

免本職補第十師團經理部附被仰付

第四師團經理部附陸軍二等主計　國澤　圓

免本職第六師團經理部附被仰付

第十師團經理部附被免

補第五師團經理部附被免

第四師團經理部附陸軍二等主計　山本庄兵衞

第六師團經理部附被仰付

免本職補軍馬補充部高原支部附

第四師團經理部附陸軍二等主計　野口　愛藏

免本職補第六師團經理部附被仰付

第十師團經理部附被免

補第六師團經理部部員

第四師團經理部附陸軍二等主計　野口　愛藏

第六師團經理部附被免歩兵第二十三聯隊附被仰付

第七師團經理部附被免

補第六師團經理部部員

第四師團經理部附陸軍二等主計　高雄　與市

第七師團經理部部員陸軍二等主計　兒玉合十郎

第四師團經理部附陸軍二等主計　後藤　房男

第十八師團經理部附被免歩兵第四十八聯隊附被仰付

第四師團經理部附陸軍二等主計　石田　房助

第四師團經理部附陸軍二等主計　池内市太郎

第四師團經理部附陸軍二等主計　辻滿右衞門

第四師團經理部附陸軍二等主計　貝沼　定吉

（各通）

軍馬補充部釧路支部附陸軍二等主計　中村　乙治

函館要塞司令部附陸軍二等主計　佐久與一

免本職第七師團經理部附被仰付

補函館要塞司令部附

第七師團經理部附被免

補第七師團經理部附被仰付

免本職補第七師團經理部部員

補野砲兵第七聯隊附

歩兵第三十六聯隊附被免

補第七師團經理部附被仰付

免本職歩兵第七聯隊附被免

補第九師團經理部部員

（各通）

免本職第十師團經理部附被仰付

歩兵第二十聯隊附被免第十師團經理部附被仰付

免本職騎兵第十聯隊附被仰付

補歩兵第四十聯隊附

補歩兵第二十聯隊附

免本職補第十師團經理部附被仰付

第十師團經理部附陸軍二等主計　中村　四郎

免本職歩兵第二十聯隊附被免

補歩兵第四十聯隊附

補歩兵第二十聯隊附

免本職補第十師團經理部附被仰付

第十師團經理部附陸軍二等主計　中村　四郎

免本職歩兵第二十聯隊附被免

補第十師團經理部附被免

補第十七師團經理部附被仰付

免本職補第十師團經理部附被仰付

第十師團經理部附陸軍二等主計　小林　梅吉

第十七師團經理部部員陸軍二等主計　原田　磯吉

第十師團經理部附陸軍二等主計　原田　磯吉

第十八師團經理部附被免歩兵第四十八聯隊附被仰付

免本職臺灣歩兵第一聯隊附被仰付

臺灣總督府陸軍經理部附被免

補臺灣歩兵第一聯隊附

臺灣總督府陸軍經理部附被免臺灣歩兵第二聯隊附被仰付

免本職補第十五大隊附　陸軍二等主計　關　正治

東京第一衞戍病院御用掛兼勤ヲ命ス　陸軍二等主計　明瀨仙太郎

免本職補東京第一衞戍病院附　陸軍二等主計　水島　岩吉

兼補陸軍軍醫學校教官　陸軍軍醫正　中村　四郎

北海道石狩國上川郡鷹栖村字近文壹線十九號　陸軍軍醫學校教官　竹居　芳藏

故陸軍砲兵一等卒德光小次郎明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金貳百四拾圓ヲ賜フ（以上十四日陸軍省）　陸軍軍醫正　荒井　元

（各通）　東京帝國大學文科大學教授　文學博士　上田　萬年

東京帝國大學文科大學助教授　保科　孝一

學術上取調ノ爲三重、奈良二縣下ヘ出張ヲ命ス　東京帝國大學文科大學教授　文學博士　高楠順次郎

學術上取調ノ爲奈良縣下ヘ出張ヲ命ス　東京帝國大學理科大學教授　理學博士　松村　任三

學術上取調ノ爲栃木、茨城二縣下ヘ出張ヲ命ス　東京帝國大學法科大學教授　法學博士　川名兼四郎

東京帝國大學法科大學教授　法學博士　花房　彌吉

學術上取調ノ爲京都府下ヘ出張ヲ命ス（以上十三日東京帝國大學）　海事局技師　宮富　賢三

廣島縣豐田郡忠海町ヘ出張ヲ命ス　海事局技師　伊藤　宅治

兵庫縣下ヘ出張ヲ命ス（以上十三日遞信省）　宮城縣立佐沼中學校教諭　渡邊　表

八級俸下賜　但當分九百（三月二日宮城縣）

海軍豫備少尉候補生ヲ命ス（十四日海軍省）

（各通）　牧　繁

中尾　友信

熊野　惠賜

岩永　新助

盛田平三郎

○宮廷錄事

○帝國議會閉會式　今二十五日午前十一時貴族院ニ於テ帝國議會閉會式執行致スヘキ旨昨二十四日仰出サレタリ

○拜謁竝天杯下賜　從五位侯爵菊亭公長、正五位伯爵兒玉秀雄、從四位子爵裏辻彦六郎、正五位子爵米津政實、從五位子爵久松勝親、同同德川武定、從五位男爵山川戈登、同同松村務、同同島津貴暢、正五位植松雅道、從五位石黒忠篤、同嵯峨實勝、同相浦助一、同阿蘇惟敬、同上田兵吉、同村上隆吉、同山中秀二郎、同岸岡恆太郎、同久保田敬一、同矢吹省三、同原口徠、同山內長世、同瓜生剛、同酒井忠昌、同板倉勝尚、同柳澤保承、同佐竹義種ハ昨二十四日午前十時三十分拜謁仰付ケラレ天杯下賜相成リタリ

○拜謁竝賞所參拜　在京都華族總代トシテ天機伺ノタメ上京ノ正五位植松雅道及佛國ヨリ歸朝ノ陸軍砲兵大尉大橋顧四郎ハ昨二十四日午前十時三十分拜謁仰付ケラレ又清國ヘ差遣ノ陸軍歩兵大尉德久久治郎、獨逸國ヘ駐在ノ陸軍

砲兵大尉田島繁稻、濠國ヘ駐在ノ陸軍工兵大尉竹島藤次郎ハ同時拜謁並ニ賢所參拜仰付ケラレタリ

○久邇宮妃御出發　邦彦王妃俔子殿下ハ御渡歐ノタメ昨二十四日午前八時新橋發汽車ニテ御出發アラセラレタリ

○皇族發著　朝融王、邦久王、良子女王、信子女王、智子女王各殿下ハ昨二十四日御出發京都ヘ御旅行アラセラレタリ

○彙報

○官廳事項

○蘭國公使館譯官見習昇任　在本邦和蘭國公使館譯官見習文學博士エム、ダブルユー、ド、ウヰッセル去月九日附ヲ以テ二等通譯官ニ昇任セシ旨同國公使ヨリ本月十五日附ヲ以テ通知アリ

○休職滿期　休職通信技師松田政一ハ本月十五日休職滿期ト爲レリ

○官吏發著　邦彦王妃俔子殿下御渡歐ノタメ隨行ノ久邇宮附家令角田敬三郎ハ昨二十四日出發セリ

丸龜稅務監督局在勤稅務監督局技師田中勝太郎ハ一昨二十三日上京セリ

曩ニ篠山地方ヘ出張ノ土屋第四師團長及三重縣名賀郡上野ヘ出張ノ山中第十六師團長ハ本月二十一日、山梨縣地方ヘ出張ノ本多騎兵第一旅團長ハ一昨二十三日孰モ歸著●林步兵第三十三旅團長ハ步兵第四十一聯隊第一期教育檢閱視察ノタメ福山衞戍地ニ向ヒ第五師團參謀長古海嚴潮ハ步兵第四十二聯隊第一期敎育檢閱視察ノタメ山口ニ向ヒ第八師團參謀長大村信行ハ山本部兵事主任會議及秋田聯隊區豫後備役將校團通常演習會視察ノタメ能代及大曲地方ニ向ヒ本月二十一日、鮫島第十四師團長ハ步兵第十五聯隊第一期檢閱實視竝ニ高崎聯隊區司令部事務視察ノタメ高崎ニ向ヒ南部陸軍士官學校長ハ同校生徒野營演習巡視ノタメ千葉縣下志津原ニ向ヒ第三師團參謀長西川虎次郎ハ步兵第六十八聯隊第一期檢閱實視ノタメ岐阜ニ向ヒ一昨二十三日孰モ出發セリ

學術實地指導ノタメ千葉縣下演習林ヘ出張ヲ命セラレタル本多東京帝國大學農科大學敎授ハ本月二十日、學術上取調ノ爲鹿兒島、沖繩二縣下ヘ出張ヲ命セラレタル東京帝國大學理科大學敎授理學博士渡瀨庄三郎ハ同二十二日、同上ノタメ福島縣下ヘ出張ヲ命セラレタル井口東京帝國大學工科大學敎授ハ一昨二十三日孰モ出發セリ

曩ニ上京ノ服部兵庫縣知事ハ一昨二十三日出發歸任セリ

判決

○辯護士懲戒判決　大阪地方裁判所所屬辯護士野口緊治辯護士法違犯事件ニ付キ昨四十一年十一月十二日大阪控訴院ニ於ケル懲戒裁判所ニ於テ左ノ如ク判決シ被告ヨリ控訴ヲ爲シタルニ付キ去月二十二日大審院ニ於ケル懲戒裁判所ニ於テ左ノ如ク判決セリ

明治四十一年(よ)第一號

判決

大阪地方裁判所所屬辯護士
被告　野口　緊治

右被告ニ對スル懲戒事件ニ付大阪控訴院檢事長代理檢事山口直三郎立會ノ上審理判決スルコト左ノ如シ

主文

被告緊治ヲ過料壹百圓ニ處ス
裁判費用ハ被告緊治ノ負擔トス

理由

被告緊治ハ大阪地方裁判所所屬辯護士事務取扱中明治三十六年九月二十九日當院ニ開ク懲戒裁判所ニ於テ監獄辨當差入業惠比壽屋事寺川精一ニ對シ相當報酬ヲ與フヘキ旨ヲ告ケテ訴訟事件ノ紹介ヲ依賴シ明治三十四年九月精一ノ紹介ニヨリ數事件ノ辯護ノ依賴ヲ受ケ領收謝金拾圓ニ對シ參圓ノ割合ノ金員ヲ紹介料トシテ精一ニ授與シタル所爲ニ依リ譴責ニ處セラレタル身分ニシテ尙又沖繩開運株式會社カ其所有汽船南都丸ヲ井上善次ニ一番抵當ニ大倉喜八郎ニ二番抵當權設定ノ上各債務ヲ負擔セルモ其辨濟ヲ遲滯セルヨリ井上善次カ明治四十年四月中辯護士岡八ヲ代理人トナシ南都丸競賣申立準備ニ著手セル折柄同會社社長取締役尾崎長六ハ明治四十年五月十一日被告緊治ニ債權者井上善次及大倉喜八郎ニ對シ南都丸ノ競賣ヲ止メテ之ヲ私賣シ其賣得金ヲ以テ債務ノ減額ヲ求メタル上辨濟ヲ爲スヘキ示談交涉方ヲ委任シ被告緊治ハ之ヲ受任シ債權者井上善次代理人岡八ニ同大倉喜八郎代理人大倉粂馬ニ右受任ノ趣旨ニ基キ示談交涉ヲ爲シタルモ終ニ示談不能ニ歸シ井上善次代理人岡八ヨリ明治四十年七月中南都丸競賣申立ヲ爲シ競賣ヲ進行スルコトトナリ而シテ又尾崎長六ノ取締役解任ノ結果被告緊治ノ受任モ消滅セリ

然ルニ被告緊治ハ翻テ明治四十年八月中沖繩開運株式會社ニ對スル前示ノ債權者大倉喜八郎ヨリ南都丸競賣事件ニ付配當要求配當金受領異議申立其他一切ノ執行行爲ヲ爲ス委任ヲ受ケ其代理人トナリ大倉喜八郎ノ債權二万七千餘圓ノ配當要求ヲ爲シ優先權否認及債權否認ノ異議ヲ申立テ竟ニ明治四十年十月十八日配當金壹万參百十五圓九錢四厘ヲ受領シテ委任終了シ大倉喜八郎ヨリハ若干ノ謝金ヲ收受シタルモノトス

以上ノ事實ハ被告緊治ニ對シ明治三十六年九月二十九日當院ニ開ク懲戒裁判所ニ於テ言渡シタル判決原本ニ前揭ノ如キ所爲ニ因リ譴責ニ處セラレタルコトノ記載アリ辯護士都留繁職ノ申告書ニ債權者井上善次カ債務者沖繩開運株式會社ノ所有汽船南都丸ヲ第一番抵當權ニ因リ明治四十年五月一日臺灣ニ於テ差押ヘ同月二十三日大阪港ヘ廻航セシムルコトトナリ同年六月一日大阪港ニ著船終ニ大阪區裁判所明治四十年(マ)第三八號船舶競賣事件トナリタリ辯護士野口緊治ハ右會社ノ代理人トナリ右會社ニ對シ南都丸修繕料船渠料訴訟事件ノ原告小野淸吉ノ代理人タル都留繁職井上善次ノ代理人岡八及ヒ大倉喜八郎ヲ歷訪シ熱心ニ示談ヲ申込ミタル旨ノ記載アリ被告緊治ノ答辯書ニ明治四十年五月十一日沖繩開運株式會社ノ委任ヲ受ケ大倉喜八郎代理人大倉粂馬ニ交涉シ汽船南都丸私賣得金ヲ以テ債務減額支拂ノ示談ヲ申込ミ其甘諾ヲ得歸阪後小野淸吉及井上善次ノ代理人辯護士岡八ニ對シ圓滿ニ解決スヘキ交涉ヲ爲シタルモ之ニ應セスシテ競賣申立ヲ爲シタルカ爲メ大倉喜八郎トノ示談モ無效ニ歸シタルコト井上善次對沖繩開運株式會社大阪區裁判所明治四十年(マ)第三八號競賣事件ニ付明治四十年八月中大倉喜八郎ヨリ債權屆出配當異議ニ關スル事件ヲ受任シ競賣裁判所ニ優先權ニ關スル意見書ヲ提出シ十月十八日ニ至リ配當金ヲ受領シ大倉喜八郎ヨリハ若干ノ謝金ヲ收受セル旨ノ記載アリ大倉組大阪支店長小林安之助ノ供述聽取書ニ汽船南都丸競賣事件カ起リ記錄カ東京ヨリ廻送サレタルニツキ入江辯護士ニ來店ヲ求メタル處事務員奧戶氏(奧田ノ誤記ト認ム)カ來ラレ相談シタルニ同人ハ競賣事件ニ對スル債權申出配當異議等事面倒ナルヲ以テ辯護士ニ依賴スル方宜敷入江辯護士ハ目下不在故野口辯護士ニ賴ンタラ宜敷トノ事ニ付東京ニ相談ノ上野口辯護士ニ委賴シタル旨ノ記載アリ明治四十年(マ)第三八號船舶競賣事件記錄中ノ明治四十年八月二十二日付大倉喜八郎ヨリ野口緊治ニ對スル委任狀ニ汽船南都丸競賣事件ニ關スル債權屆出計算書提出配當金受領競賣競落等總テノ期日ニ立會ヒ總テノ申立陳述異議等競賣事件ニ關スル一切ノ行爲ヲ委任スル旨ノ記載アリ又被告緊治カ右委任ニ因リ大倉喜八郎ノ代理人トナリ債權二万七千八百餘圓ノ配當要求ヲ爲シタルコト優先權ヲ否認債權否認ノ異議ヲ申立タルコト及ヒ金一万三百十五圓九錢四厘ノ配當金ヲ受領シタルコトノ記載アリ被告緊治ノ當廷ニ於ケル沖繩開運株式會社取締役尾崎長六ヨリ南都丸ニ對スル抵當權者大倉喜八郎ニ對シ示談交涉シ吳レトノ委任ヲ受ケ大倉喜八郎方ニ抵リ南都丸ヲ私賣シ買主ヨリ大倉喜八郎ノ債權二万五千圓ノ內一万圓ヲ代辨シ抵當權ヲ抹消スヘキコトノ交涉ヲ遂ケタルモ井上善次代理人岡八トノ間ニ支拂金額ノ協定纏ラス終ニ示談不調ニ歸シタル旨ノ供述證人岡八カ明治四十年四月頃井上善次ヨリ南都丸競賣ノ委任ヲ受ケタルモ當時汽船カ臺灣ニ在ルヨリ大阪ニ廻航セシメタリ野口辯護士ハ沖繩開運株式會社ノ委任ヲ受ケタリトテ著船前同年五月中證人宅ニ來リ示談ヲ申込マレタルモ終ニ示談纏マラサルヨリ競賣ヲ申立タル旨ノ證言ヲ綜合考覈シ之ヲ認ムルニ十分ナリ

法律ヲ案スルニ被告緊治ノ所爲ハ辯護士法第十四條第一號ニ違反スルモノトス被告緊治ハ南都丸ハ鈴木太兵衛カ讓受ケ卽チ債權者井上善次ニ於テハ鈴木太兵衛ノ所有ニ屬スル南都丸ニ對シ競賣申立ヲ爲シタル次第ナレハ前ノ相手方沖繩開運株式會社ヨリ委任ヲ受ケタル事件ト後チニ大倉喜八郎ヨリ受任セシ競賣事件ニ係ル執行行爲トハ全ク相異ナルモノナルヲ以テ辯護士法第十四條ニ違反スルコトナシト辯スレトモ沖繩開運株式會社取締役尾崎長六ノ供述聽取書ニ南都丸ヲ海外貿易株式會社ニ私賣スル登記手續ノ便宜上一時鈴木太兵衛ノ所有名義ニ爲シ置キタルニ過キサル旨ノ記載アルニ徵シ鈴木太兵衛ハ單ニ名義人ニ止マリ眞ノ所有者カ依然沖繩開運株式會社ナルコト明白ナルノミナラス被告緊治カ始メ沖繩開運株式會社ヨリ受任セシ債權者井上善次大倉喜八郎ニ對スル示談交涉事件ト後チ債權者大倉喜八郎ヨリ受任シテ爲シタル競賣事件ニ於ケル配當要求異議申立等ノ執行行爲トハ債務者ヲ同フシ明カニ前記辯護士法ニ違反スルモノタリ因テ同法第三十三條第二號ニ照シ主文ノ如ク判決スルモノナリ

明治四十一年十一月十二日

大阪控訴院ニ於ケル懲戒裁判所
裁判長　判事　板垣　不二男
判事　西岡　清
判事　伏見　正吏
判事　三森　榮次郎
判事　小幡　信爲
裁判所書記　高橋　辰三郎

明治四十一年(な)第三號

判決書

大阪地方裁判所所屬辯護士
被告　野口　緊治

右被告緊治ニ對スル懲戒事件ニ付明治四十一年十一月十二日大阪控訴院ニ於ケル懲戒裁判所カ被告緊治ヲ過料壹百圓ニ處スト言渡シタル判決ニ對シ被告緊治ヨリ控訴申立ヲ爲シタリ依テ當懲戒裁判所ハ檢事總長松室致ノ代理人檢事棚橋愛七立會ノ上審理判決スルコト左ノ如シ

主文

原判決ハ之ヲ取消ス
被告緊治ヲ過料七拾圓ニ處ス
裁判費用ハ總テ被告緊治ノ負擔トス

理由

被告緊治ハ大阪地方裁判所所屬辯護士ニシテ其業務ニ從事中明治三十六年九月二十九日大阪控訴院ニ於ケル懲戒裁判所ニ於テ監獄辨當差入業寺川精一ニ對シ相當紹介料ヲ與フヘキ旨ヲ告ケテ訴訟事件ノ紹介ヲ依賴シ同人ノ紹介ニ依リ數事件ノ辯護ノ依賴ヲ受ケ謝金拾圓ニ對シ三圓ノ割合ニテ紹介料ヲ精一ニ授與シタル所爲ニ依リ譴責ニ處セラレタルニ明治四十年ニ至リ沖繩開運株式會社ノ一番抵當債權者井上善次カ其抵當物件ナル同會社所有汽船南都丸ノ競賣申立ヲ爲サントスルニ當リ同年五月十一日被告緊治ハ同會社社長取締役尾崎長六ノ委任ヲ受ケ井上善次ノ代理人辯護士岡八及ヒ二番抵當債權者大倉喜八郎ノ代理人大倉粂馬ニ對シ債權ノ減額ヲ爲シ南都丸ノ競賣ヲ止メテ之ヲ私賣シ其賣得金ヲ以テ債務辨濟ヲ爲スヘキ旨ノ示談交涉ヲ爲シ且南都丸賣却ノ便利ヲ圖リ其所有名義ヲ同會社ヨリ鈴木太兵衛ニ移轉シタルモ右示談交涉ハ調ハサルノミナラス同年六月尾崎長六ハ取締役ノ解任ヲ爲シタルニ依リ被告緊治ノ委任モ亦消滅シタリ而シテ同年七月十五日井上善次ノ代理人岡八ニ於テ債務者沖繩開運株式會社及ヒ抵當物件所有者鈴木太兵衛ニ對シ抵當物件南都丸競賣ノ申立ヲ爲シ大阪區裁判所ニ於テ右競賣手續ヲ進行スルニ當リ同年八月二十二日被告緊治ハ右債務者沖繩開運株式會社ノ相手方ナル抵當債權者大倉喜八郎ヨリ南都丸競賣事件ニ付配當要求等競賣事件ニ關スル一切ノ權限ノ委任ヲ受ケ其代理人ト爲リ同月二十八日大倉喜八郎ノ同會社ニ對スル債權貳万七千八百五拾八圓三十九錢ノ配當要求ヲ爲シ同年十月十一日前顯債權ニ對スル配當金壹万三百十五圓九錢四厘ヲ受領シテ終了シ大倉喜八郎ヨリ金若干ノ謝金ヲ收受シタルモノナリ

以上ノ事實ハ被告ノ答辯書ニ於ケル明治四十年五月十一日沖繩開運株式會社ノ委任ヲ受ケ其債權者大倉喜八郎ノ代理人大倉粂馬ニ對シ債權ヲ減額シ抵當ノ汽船南都丸ヲ競賣ニ付セスシテ之ヲ私賣シ其賣得金ヲ以テ債權ヲ辨濟スヘキ旨ノ示談ヲ爲シ其承諾ヲ得タルモ債權者井上善次ノ代理人岡八ニ於テ示談ニ應セサリシヲ以テ右示談ハ不調ニ歸シ且同會社社長取締ノ更迭ニ因リ被告緊治ノ委任モ消滅ニ歸シタル旨ノ記載、明治四十年八月二十二日付大倉喜八郎ヨリ野口緊治ニ宛テタル委任狀ニ於ケル汽船南都丸競賣事件ニ關スル一切ノ行爲ヲ委任スル旨ノ記載、明治四十年八月二十八日付債權者大倉喜八郎ノ代理人野口緊治ヨリ大阪區裁判所ニ宛テタル配當要求書ニ於ケル沖繩開運株式會社ノ債權者井上善次ノ競賣申立ニ對シ同債權者大倉喜八郎ニ於テ債權金貳万七千八百五拾八圓三拾九錢ノ配當要求ヲ爲ス旨ノ記載、明治四十年十月十八日付大倉喜八郎代理人野口緊治ヨリ大阪區裁判所ニ宛テタル領收證ニ於ケル汽船南都丸ニ關スル四十年(マ)第三八號競賣事件ニ付キ配當金トシテ金壹万三百拾五圓九錢四厘ヲ領收シタル旨ノ記載、被告緊治ノ當法廷ニ於ケル明治三十六年九月二十九日大阪控訴院ニテ開カレタル懲戒裁判所ニ於テ前掲ノ行爲ニ依リ譴責ニ處セラレタル旨ノ供述、明治四十年五月十一日沖繩開運株式會社社長尾崎長六ヨリ委任ヲ受ケ其債權者大倉喜八郎ノ代理人大倉粂馬ニ對シ債權ヲ減額シ抵當物件南都丸ヲ競賣ニ付セスシテ之ヲ私賣シ其賣得金ヲ以テ債權ヲ辨濟スヘキ旨ノ示談ヲ爲シ其承諾ヲ得タルヲ以テ債權者井上善次ノ代理人辯護士岡八ニ對シ南都丸競賣ヲ止メテ之ヲ私賣シ其賣得金ヲ以テ債權ヲ辨濟スヘキ旨ノ示談交涉ヲ爲シタルモ債權ノ金額ニ付キ互ニ意見ヲ異ニシタルカ爲メ示談ハ不調ニ歸シタル旨ノ供述、明治四十年八月二十二日大倉喜八郎ヨリ南都丸競賣事件ニ付配當要求申立等ノ委任ヲ受ケ同人ノ代理人トナリ同月二十八日南都丸競賣事件ニ付大倉喜八郎ノ沖繩開運株式會社ニ對スル債權金貳万七千八百五拾八圓三拾九錢ノ配當要求ヲ爲シ同年十月十一日大阪區裁判所ヨリ配當金壹万三百拾五圓九錢四厘ヲ受領シ之ヲ大倉喜八郎ニ交付シ謝金千餘圓ヲ收受シタル旨ノ供述ニ參照考覈シテ之ヲ認ムルニ十分ナリ

法律ヲ按スルニ右被告緊治ノ所爲ハ當事者ノ一方ナル債務者ヨリ委任ヲ受ケ其代理トナリ辯護士ノ職務ヲ行ヒタル事件ニ付更ニ其相手方ナル債權者ノ委任ヲ受ケ其代理トナリ同職務ヲ行ヒタルモノニシテ辯護士法第十四條第一號ニ違反スルモノナリ依テ同第三十三條ニ從ヒ被告緊治ヲ過料七拾圓ニ處スヘキモノトス然ルニ原裁判所ニ於テ前掲被告緊治ノ所爲ニ對シ被告緊治ヲ過料百圓ニ處スト言渡シタルハ其情狀ニ照シ重キニ失スルヲ以テ被告緊治ノ控訴ハ其理由アルモノナリ依テ辯護士法第三十四條及ヒ判事懲戒法第四十四條第二項ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

明治四十二年二月二十二日

大審院ニ於ケル懲戒裁判所
裁判長　判事法學博士　横田　國臣
判事　鶴　丈一郎
判事　伊藤　悌治
判事　志方　鍛
判事　清水　一郎
判事　田代　律雄
判事　岩野　新平
裁判所書記　成瀬　邑雄

司法及警察

○辯護士名簿登錄換　東京地方裁判所所屬辯護士藤田鐵太郎ノ請求ニ依リ本月十五日名古屋地方裁判所檢事局ニ於テ辯護士名簿ノ登錄換ヲ爲セリ

○辯護士名簿登錄取消　廣島地方裁判所所屬辯護士栗原茂之ノ死去ニ因リ本月十六日、同地方裁判所所屬辯護士黑澤太郎ノ請求ニ依リ同二十日孰モ所屬裁判所檢事局ニ於テ辯護士名簿ノ登錄ヲ取消セリ

第 7721 号 本文

○破產管財人任命　兵庫縣士族松田秀夫ハ本月二十三日神戶地方裁判所管內破產管財人ヲ、長野地方裁判所管內破產管財人長野縣士族正六位勳六等太田撰、神戶地方裁判所管內破產管財人兵庫縣平民谷襄ハ孰モ任期滿限ニ付キ同二十三日再任ヲ命セラレタリ

○出火　本月二十日午前二時靜岡縣富士郡今泉村今泉ヨリ出火全燒十戶、半燒二戶同四時鎭火原因過失ナリ

○陸海軍

○步兵第五十三聯隊移轉　步兵第五十三聯隊ハ本月二十一日奈良縣添上郡高畑村ヘ移轉シ同二十二日ヨリ事務ヲ開始セリ（陸軍省）

○衞戍病院設置　和歌山衞戍病院ハ本月十八日和歌山縣海草郡湊村ニ、高槻衞戍病院ハ同二十一日大阪府三島郡高槻町ニ、水戶衞戍病院ハ同二十二日茨城縣東茨城郡渡里村ニ孰モ設置シ即日ヨリ事務ヲ開始セリ（陸軍省）

○蹄鐵術卒業　野砲兵第十三聯隊ニ於テ本月十九日左記ノ者ニ各蹄鐵術卒業證書ヲ付與セリ（陸軍省）

群馬縣平民	砲兵一等卒	水出　操平	群馬縣平民	砲兵一等卒	林　喜三郎
茨城縣平民	砲兵二等卒	冲山　喜一郎	群馬縣平民	砲兵二等卒	大久保國次郎
埼玉縣平民	砲兵一等卒	內山　正平	栃木縣平民	砲兵一等卒	藤田　榮吉
埼玉縣平民	砲兵二等卒	笠原　猪十郎	栃木縣平民	砲兵二等卒	高橋　多作
埼玉縣平民	砲兵二等卒	島田　常次	茨城縣平民	砲兵二等卒	高須　庄司
埼玉縣平民	砲兵一等卒	小久保柳之助	群馬縣平民	砲兵一等卒	福田　六藏
茨城縣平民	砲兵一等卒	石濱　小重郎	群馬縣平民	砲兵一等卒	山本　倉三
群馬縣平民	砲兵一等卒	佐藤　德次郎	茨城縣平民	砲兵二等卒	土田　平次郎
群馬縣平民	砲兵二等卒	眞庭　竹松	茨城縣平民	砲兵二等卒	福田　市太郎
栃木縣平民	砲兵二等卒	龜井　甚市			

○生徒退校　陸軍中央幼年學校本科第一學年生徒石川榮ハ同校條例第十七條第二號ニ依リ本月二十日退校セリ（陸軍省）

○軍艦發著　各港灣ニ於ケル軍艦發著左ノ如シ（海軍省）

艦名	月日	著	發	行先
初春・初雪	三、二三	吳		
八雲	同	橫須賀		
日進	三、二四		宮島	龜ノ首
潮・子日・朝風・若葉	三、二四		牛深	長崎
音羽	同		吳淞	
隅田	同	蕪湖		

○學事

○學位授與（昨二十四日ノ續）

學位記

京都府平民
從六位　慶松勝左衞門

右論文ヲ提出シテ學位ヲ請求シ東京帝國大學醫科大學敎授會ニ於テ其大學院ニ入リ定規ノ試驗ヲ經タル者ト同等以上ノ學力アリト認メタリ仍テ明治三十一年勅令第三百四十四號學位令第二條ニ依リ茲ニ藥學博士ノ學位ヲ授ク

論文審査ノ要旨

揮發油研究補遺

著者ハ緖論ニ於テ從來本邦ニ於ケル揮發油研究ノ大體ヲ列敍批評シ更ニ歐洲ニ於ケル揮發油及「テルピン」族化學ノ發達ヲ說キ其成分及構造ノ解析竝ニ人工聚成法ニ關スル最近ノ學說ヲ系統的ニ論述セリ

第一篇ニ於テ著者ハ杉ノ揮發油ニ關スル研究ヲ述ヘ該油中ヨリ一箇ノ新ラシキ「セスクヰテルペン」ヲ發見シ其光學的性質及化學的性質研究ノ結果本物質ハ二箇ノ「エチレン」結鎖ヲ有スル右旋「セスクヰテルペン」ナルコトヲ確定シコレヲ「クリプテン」ト命名セリ

第二篇ニ於テ肉桂屬植物ノ揮發油比較研究ニ關シテ論述セリ即本邦產肉桂ノ葉油ヨリ「チトラール」、「チネオール」、「リナセール」ヲ根油ヨリ「カムフェン」、「チネオール」、「リナセール」及桂「アルデヒード」ヲ幹油ヨリハ「アルペン」以外ニ桂「アルデヒード」ヲ抽出確證シ又やぶにくけい樹ノ幹油ヨリ「フェルランドレン」、「オイゲノール」及「メチルオイゲノール」ヲ分離セリコレ等ノ成分ヲ從來已知ノ同屬植物揮發油成分ト比較シ肉桂葉カ未タ他種ニ發見セラレサル脂肪列「アルデヒード」タル「チトラール」ヲ含有スル異例ヲ指摘セリ

第三篇ニ於テハりうのうぎくノ揮發油ヲ論シ本油ヨリ左旋「カムフェン」及樟腦ヲ抽出證明セリ本樟腦ハ從來天然ニ發見セラレサリシ光學的無力ノ物質ナルコトヲ確定シ又本樟腦ヲ硝酸ニヨリテ酸化シテ得タル樟腦酸モ亦光學的無力ニシテ人工的ニ合成シ或ハ「テルペン」ヨリ誘導セル樟腦ノ酸化ニヨリテ生スルモノト全ク一致スルコトヲ認メ更ニ其臭素化合體ハ通常樟腦ニ於ケルカ如ク「アルファ」誘導體ヲ生セス却テ「ベタ」誘導體ヲ生スルコトヲ實驗シ兩種樟腦ノ關係ハ亦立體的同質異性體ニ外ナラサルコトヲ論定セリ

以上論文ハ學術上有益ニシテ慶松勝左衞門ハ藥學博士ノ學位ヲ授與セラルヘキ資格ヲ有スルモノト認定ス

學位記

大阪府平民
正七位　石津利作

右論文ヲ提出シテ學位ヲ請求シ東京帝國大學醫科大學敎授會ニ於テ其大學院ニ入リ定規ノ試驗ヲ經タル者ト同等以上ノ學力アリト認メタリ仍テ明治三十一年勅令第三百四十四號學位令第二條ニ依リ茲ニ藥學博士ノ學位ヲ授ク

論文審査ノ要旨

松蘿ノ成分（獨文）

地衣ハ菌類及藻類ヨリ成ル複合植物ニシテ植物學上特殊ノ部門ヲ形成シ其生物化學ニ關スル見解未タ充分ナラサルモノ甚タ多ク殊ニ各種ノ地衣體ニ廣ク現存スル所謂地衣酸類ハ其生理學上ノ意味審カナラス地衣質ニシテ從來知ラレタルモノ既ニ百餘種ヲ算スルモ其化學的構造ノ明カナルモノニ至リテハ僅々二三ヲ數フルニ過キス

著者ハ本邦產松蘿ノ化學的成分ヲ研究シ殊ニ地衣酸中最モ廣ク分布シ然カモ其本性ノ未タ明ラカナラサル「ウスニン」酸ノ化學的構造ヲ闡明スルニ務メタリ

著者ハ其緖論ニ於テ和漢藥ノ藥化學的研究ノ頗ル興味アルコトヨリ說キ起シ之カ詳細ナル檢索ハ將來治療上有效ナル新藥劑ヲ發見スルノ望ミナキニアラサルコト又本草綱目所載ノ藥劑ハ尙近世ノ學術ヲ應用シテ更ニ之カ秩序的研究ヲ遂ケ其眞價ヲ判明スルノ必要アルコト及此事タル本邦藥學者ノ當然盡スヘキ任務タルコトニ論及シ次テ地衣ニ關スル生物化學ノ大要ヲ略述シ更ニウヰットマン氏ノ「ウスニン」酸ニ關スル研究業蹟ノ要概ヲ紹介シ同氏ノ研究ハ實ニ「ウスニン」酸化學ノ歷史ニ一新時代ヲ創成セルモノナレトモ氏ノ設定ニ係ル該酸ノ化學構造式ハ尙數多ノ點ニ於テ事實ト齟齬スルコト又水酸化「カリウム」ノ作用ニ由リテ生成スル分解產物ニ關スル知見ノ尙不充分ナルヲ論述セリ

著者ハ松蘿ノ成分トシテ右旋性「ウスニン」酸、「パルバチン」酸、「ベタウスニン」酸、「パルバチン」ナル

四種ノ結晶性物質及「リヘニン」ナル一種ノ無晶形物質ヲ純粹ニ分取シ各成分ニ就キ其性狀ヲ精査シテ有機抱合物中所屬ノ部門ヲ確定シ殊ニ「ウスニン」酸ニ關シテハ構造判定上必要ナル諸多ノ實驗ヲ施行セリ

「ウスニン」酸ノ融點、比旋度及化學的集成ハ從來學者ノ久ク論爭スル處ニシテ泰西研究者ノ成績ノ相一致セサルハ主トシテ其材料ヲ異種ノ地衣ヲ混有セルモノニ求メタルニ因ル著者カ本邦產松蘿ヨリ分取シタル「ウスニン」酸ニ就テ施シタル實驗成績ハウヰットマン氏所論ノ確實ヲ立證セリ

著者ハ更ニ右旋性「ウスニン」酸ニ長時間氷醋酸ヲ作用セシメ之ヲ光學的無力ノ「ウスニン」酸ニ變スルコトヲ得タリ無力性「ウスニン」酸ノ「ラセミ」性ニ關スル檢索竝ニ之ヲ光學的活性アル兩箇ノ成分ニ分割スルノ企圖ハ著者ノ實驗中ニ屬シ他日ノ遂行ヲ期スル處ナリ

次ニ鹽類形成ノ關係ヨリ「ウスニン」酸ニハ一箇ノ「ラクトン」環ヲ包有スルコトヲ確メ尙「ウスニン」酸ノ構造ヲ確定センカ爲メ諸種ノ試藥ヲ作用セシメ數多ノ誘導體ヲ製シ之カ化學的本性ヲ審カニシ「ウスニン」酸トノ關係ヲ明カニシ更ニ水「アルコホル」苛性「アルカリ」、濃硫酸分子ノ轉換ニ由テ生シタル新物質及「ウスニン」酸ノ分解產物數種ノ性狀ヲ究メ殊ニ著者ハ「ウスニン」酸ノ加里熔融ニ由テ得タル「ピロウスニン」酸ハ前者ノ構造判定上有力ナル證據ヲ與フヘキヲ信シ之ヲ精査シタリ

著者ハ以上ノ實驗ニ基キウヰッドマン氏カ「ウスニン」酸ノ骨格ハ「プルビン」酸ニ於テ見ルカ如ク二重「ラクトン」ニシテ全然脂肪體化合物ナリトノ斷定ヲ下セシハ信スヘカラスシテ寧ロ一種ノ「ピローン」體ナリト思考スルノ至當ナルヲ結論セリ

大楓子ノ研究（獨文）

大楓子竝ニ之ヨリ壓榨シテ得タル大楓子油ハ東洋ノ特產ニシテ癩病ニ效アリトナシ古來東洋諸國ニ於テ普ク用ヒラルヽ藥劑ナリ歐米諸國ニアリテモ千八百八十年ピック氏始メテ之ヲ使用シ其偉效ヲ認メタル以來之ヲ賞用スルニ至レリ然レトモ之カ化學的性狀ニ關シテハ從來未タ詳細ナル研究ヲ遂ケタルモノナシ

著者ハ大楓子ト稱シ本邦市場ニ販賣セル種子ニ就キ先ツ生藥學的試驗ヲ施シ其基原植物ヲ考察シタル結果從來久ク世人ノ思考セシカ如ク「ギノカルヂア、オドラータ」ニアラスシテ之ト近似セル植物「ヒドノカルプス」屬ニ基原スルモノナルコトヲ明カニシ次ニ自己ノ製造ニ係ル大楓子油ニ就キ理學的竝ニ化學的恒數ヲ定メ其際大楓子油ハ右旋性ニシテ比旋度五〇度ヲ示シ脂肪油中比旋度ノ最モ大ナルモノナルヲ證シ且ツ該油ノ光學的活性ハ專ラ油中一種ノ脂肪酸即チ所謂大楓子酸ニ基因スルモノナルヲ認メタリ

著者ハ更ニ大楓子油ノ鑑識ニ必要ナル固有ノ呈色反應ヲ案出シ尙進ンテ大楓子油ノ主成分タル脂肪酸殊ニ大楓子酸ノ化學的構造ヲ攻究センカ爲メ分劑洗滌法ニ由テ主成分タル大楓子酸ヲ分離精製シ之ニ就キ原素分析及分子量測定ヲ施シ尙銀及鉛鹽竝ニ「エチール、エステル」ヲ製シ原分析ニヨリ大楓子酸ノ分子式 $C_{16}H_{28}O_2$ ノ正當ナルヲ確證シ更ニ必要ナル實驗ヲ施シ該酸ハ一箇ノ二重結合ヲ有シ油酸系列ニ屬スル不飽和酸ナルコトヲ證明シ二臭化大楓子酸ヲ製シ又沃化水素ヲ以テ還元シ之ニ該當スル飽和脂肪酸ヲ製シ其他酸化ニ際シテハ炭酸ノ傍ラ二種ノ低位脂肪酸ヲ生成スルコトヲ認メ且ツ二重結合ハ炭酸基ニ對シ「ベタ、ガマ」ヨリ更ニ遠キ位置ニ存スルコトヲ確メ以上ノ實驗ヲ基礎トシ大楓子酸ノ化學構造式ヲ設定シ以テ諸般反應ノ由テ來ル所以ヲ說明シ著者ノ分離シタル不飽和脂肪酸ハ千九百四年シンデルマヰゼル氏ノ得タル不飽和脂肪酸 $C_{27}H_{50}O_2$ 及同年パワー及ゴウナル兩氏カ「ヒドノカルプス」ノ種子ヨリ得タル「ヒドノカルプ」酸 $C_{16}H_{28}O_2$ トハ全ク別種ナルコトヲ論述セリ

以上論文ハ學術上有益ニシテ石津利作ハ藥學博士ノ學位ヲ授與セラルヘキ資格ヲ有スルモノト認定ス

學位記

靜岡縣平民
正七位勳五等　近藤平三郎

右論文ヲ提出シテ學位ヲ請求シ東京帝國大學醫科大學敎授會ニ於テ其大學院ニ入リ定規ノ試驗ヲ經タル者ト同等以上ノ學力アリト認メタリ仍テ明治三十一年勅令第三百四十四號學位令第二條ニ依リ茲ニ藥學博士ノ學位ヲ授ク

論文審査要旨

植物鹽基構造研究補遺（苦參ノ「アルカロイド」ノ構造說）

著者ハ總論ニ於テ先ツ先輩諸氏ノ實驗ト論說トニ基キ藥化學殊ニ「アルカロイド」化學ノ沿革史ヲ敍シ尋キテ近年著シク發達セル蛋白質化學ト前記「アルカロイド」化學トノ密接ナル關係ニ論及シ今後兩者ノ進步發展ハ兩方面ヨリ互ニ相輔ケテ研鑽スルコトノ最モ緊要ナル手段ナルヲ說キ特ニ「アルカロイド」化學ノ方面ニアリテハコノ目的ヲ遂センカ爲メニハ構造ノ研究、化學的人工集成尙進ンテハ未タ天然ニ知ラレサル物質ノ創製等ノ研究ハ斯學者ノ一日モ忽ニスヘカラサル急務ナルヲ以テ著者ハコノ方針ニ從ヒ先ツ本邦ニ產出スル苦參ノ「アルカロイド」ニシテ長井博士カ發見セル Matrin ニ就テ詳細ナル研鑽ヲ遂ケント欲シ數多實驗ノ結果遂ニ左ノ如キ結論ニ到達セリ Matrin $C_{15}H_{24}N_2O$ ハ一酸性第三「アミーン」型ニ屬スル鹽基（Einsäurige tertiäre Base）ニシテ一箇ノ窒素ハ第三「アミーン」Nitrile ノ形ニ存在シ他ノ一箇ノ窒素ハ酸素ト結合セル炭素 C＝O ニ對シテ「ガムマー」（R）ノ位置ニ位シ元來ハ第二「アミーン」Imido ノ形ニ存在スト雖モ C＝O ト「ラクターム」ヲ形成シツヽアルカ故ニ水素ヲ含有セス一度 Matrinsäure トナルニ及ンテ始メテ水素ヲ含有スルニ至ル該窒素ニ對シテ「ガムマー」（R）ノ位置ニ位スル C＝O ハ Matrin ニ苛性「カリ」ヲ處分スル時ハ水一分子ヲ攝取シテ「カルブオキシール」族ニ變シ化生シ來ル所ノ「イミッド」ト分子中ニ於テ「アムモニウム」鹽ヲ形成スルカ或ハ過剩ノ苛性「カリ」ト化合シテ「カリウム」鹽ヲ形成スヘシ若シ此際溫度高キニ過クル時ハ水或ハ苛性「カリ」ヲ分離シテ「ラクターム」トナリ Matrin ヲ復生スヘシ

Matrin ノ構造ノ大部分ヲ形成シ炭素及ヒ水素ヨリ成立スル所ノ核ノ說明ニ關シテハ Jod-Dimethylmatrinsäuremethylester 及ヒ新製シタル水酸化石灰トノ混合物ノ乾餾ニ於テ其目的ヲ遂スルヲ得タリ卽チ該乾餾ニ際シテハ Hofmann 氏ノ定則ニ從ヒ「アムモニウム」鹽基ハ變シテ第三「アミーン」ヲ形成シ分立シテ Methypiperidin トナリ同時ニ Hydrochinolin ニ屬スル核ハ分離シテ一分子ノ水ヲ放チ以テ一ノ不飽和結合ヲ形成シ且ツ「イミッド」中ノ水素ニ置換セラレタル「メチュール」基ハ再ヒ水素ト交換シ同時ニ酸基ハ炭酸トナリテ分解シコヽニ始メテ Oktohydrochinolin ヲ形成スルニ至ルコヽニ於テ Matrinsäure ハ Piperidyl-Dekahydrochinolin monocarbonsäure $C_5H_{10}N.C_9H_{14}NH.COOH$ ニシテ Matrin ハ其「ラクターム」ニ外ナラサルナリ

是ニ據テ之ヲ見レハ從來 Pyridin 列鹽基トシテ一般ニ見倣サレタル（Czapek. Biochemie der pflanzen ニヨレハ）荳科植物中ノ「アルカロイド」ニシテ其分子中ニ Chinolin 核ノ發見セラレタルハ蓋シ Matrin ヲ以テ嚆矢トナスヘク從テ該科植物ノ他ノ「アルカロイド」ニシテ精研ノ結果必スヤ尙其分子中 Chinolin 核ノ存在ヲ發見スヘキコト蓋シ豫想スルニ難カラサルナリ

Jod-Dimethylmatrinsäuremethylester 乾餾成績體トシテ得タル Okto. Chinolin ハ一種ノ新鹽基ニシテ抑モ Chinolin ノ水加化合體ハ理論上ヨリスレハ Di, Tetra, Hexa. Okto ノ五種類ヲ生シ得ヘク而カモ現今 Okto Chinolin ヲ除クノ外盡ク皆人工的ニ製出セシムルヲ得ヘシト雖モ獨リ Okto Chinolin ノミ未タ嘗テ成立セシ事實ヲ聞カサルカ故ニ今回同物質ヲ得タルハ單ニ Okto Chinolin 成立ヲ確認スルヲ得タルノミナラス從テ Hydrochinolin 族唯一ノ缺陷ヲ補ヒタルモノト云フモ敢テ過言ニアラサルヘシ

以上論文ハ學術上有益ニシテ近藤平三郎ハ藥學博士ノ學位ヲ授與セラルヘキ資格ヲ有スルモノト認定ス

（未完）

○留學生出發　文部省外國留學生大阪高等工業學校敎授加藤完一ハ本月二十日出發セリ（文部省）

○產業

○工業試驗場設立認可　一昨二十三日岐阜縣工業試驗場設立ノ件ヲ認可セリ（農商務省）

第7721号 本文

○鑛業事項　鑛業法ニ依リ處分シタルモノ左ノ如シ（農商務省）

試掘許可

登錄番號	鑛區所在地	鑛種	面積	鑛業權者住所氏名	許可及登錄ノ月日	事由
靜岡試登錄第百三十四號	磐田郡龍山村地內	銅、硫化鐵	一九九、三三二坪	東京府北豐島郡王子町	三、一五	試掘願許可
新潟試登錄第千六十號	刈羽郡高柳村地內	石油	二九九、七四〇	新潟縣刈羽郡二田村大字松久一作外八人	三、一四	同
新潟試登錄第千六十二號	東蒲原郡下條村地內	金、銀、銅	三五九、七七七	同縣東蒲原郡下條村大字湯野上六人郎外一人	三、一五	同
新潟試登錄第千六十三號	中蒲原郡橋田村大字大蒲原村地內	石油	二三九、八七〇	同縣新潟市上大川前通拾番町	三、一六	同
新潟試登錄第千六十四號	三島郡大津村地內	同	二二〇、九二二	東京市日本橋區小舟町二丁目	三、一七	同
新潟試登錄第千六十五號	南魚沼郡大巻村六日町地內	同	三九四、三二六	新潟縣南魚沼郡六日町	三、一七	同
新潟試登錄第千六十六號	東蒲原郡三川村地內	金、銀、銅	三八五、一五〇	同縣中蒲原郡新津町	三、一七	同
新潟試登錄第千六十七號	東頸城郡牧村地內	石油	四二、一二四	同縣長岡市坂之上町	三、一七	同
靜岡試登錄第百三十五號	三島郡與板町島田村桐島村地內	同	二一〇、〇〇〇	東京市日本橋區小舟町二丁目	三、一七	同
靜岡試登錄第百三十六號	榛原郡地頭方村地內	同	五六〇、七二四	新潟縣長岡市坂之上町	三、一七	同
靜岡試登錄第百三十七號	小笠郡西郷村垂木村、大池村地內	同	次二九、九三五	同	三、一七	同
岐阜試登錄第三百二號	吉城郡上宮村地內	石炭	三九四、一四七	岐阜縣吉城郡上宮村大字中島平兵衛	三、一七	同

○通運

航海奬勵認許證書下付　遞信省ニ於テ航海奬勵法ニ依リ三菱合資會社所有船若松丸ニ對シ一昨二十三日ヨリ明治四十三年三月十九日マテ有效ノ認許證書ヲ下付セリ該船ハ明治三十五年四月二十二日帝國船籍ニ登錄セラレタル鋼製汽船（總噸數二千七百七十八噸二〇、最強速力十二海里九一）ニシテ同年二月十三日進水セシモノナリ（遞信省）

○衛生

傳染病患者及死亡者數　去月二十六日ヨリ二十八日ニ至ル赤痢、腸窒扶私、痘瘡患者及死亡者數左ノ如シ（内務省）

道府縣	赤痢 患者	赤痢 死者	腸窒扶私（本年初發及繼續ノ數計） 患者	腸窒扶私（本年初發及繼續ノ數計） 死者	痘瘡（水年初發及繼續ノ數計） 患者	痘瘡（水年初發及繼續ノ數計） 死者
北海道	一	一	一九	六	三六	九

	赤痢 患者	赤痢 死者	腸窒扶私（本年初發及繼續ノ數計） 患者	腸窒扶私（本年初發及繼續ノ數計） 死者	痘瘡（水年初發及繼續ノ數計） 患者	痘瘡（水年初發及繼續ノ數計） 死者
東京市	一	一	二四	一二	二七	九
京都府	一	一	四三	一八	二四	九
大阪府	一	一	三九	一二	三九	一四
神奈川縣	一	一	二九	一二	三八	一五
兵庫縣	一	一	二〇	一〇	二九	一五
長崎縣	一	一	三六	一三	二四	一四
新潟縣	一	一	一四	一四	一六	一四
埼玉縣	一	一	一四	一四	一七	一四
群馬縣	一	一	一〇	一〇	一三	一四
千葉縣	一	一	一二	一二	一六	一三
茨城縣	一	一	九	九	一四	一三
栃木縣	一	一	八	八	一六	一三
愛知縣	一	一	二七	二七	二四	一二
三重縣	一	一	一二	一二	一四	一二
奈良縣	一	一	八	八	一六	一二
靜岡縣	一	一	一六	一六	二四	一二
滋賀縣	一	一	一四	一四	一四	一二
山梨縣	一	一	一三	一三	一四	一二
岐阜縣	一	一	一〇	一〇	一三	一二
長野縣	一	一	一四	一四	一三	一二
宮城縣	一	一	一三	一三	一四	一二
福島縣	一	一	一四	一四	一六	一二
青森縣	一	一	一四	一四	一六	一二
山形縣	一	一	一九	一九	一六	一二
秋田縣	一	一	一四	一四	一九	一二
福井縣	一	一	一四	一四	一四	一二
石川縣	一	一	一六	一六	一三	一二

	赤痢 患者	赤痢 死者	腸窒扶私（本年初發及繼續ノ數計） 患者	腸窒扶私（本年初發及繼續ノ數計） 死者	痘瘡（水年初發及繼續ノ數計） 患者	痘瘡（水年初發及繼續ノ數計） 死者
富山縣	一	一	九	一	一四	一
鳥取縣	一	一	九	一	一二	一
島根縣	一	一	一三	一	一四	一
岡山縣	一	一	一八	一	一五	一
廣島縣	一	一	一二	一	一三	一
山口縣	一	一	一五	一	一三	一
和歌山縣	一	一	一三	一	一三	一
德島縣	一	一	一二	一	一二	一
香川縣	一	一	一三	一	一三	一
愛媛縣	一	一	一三	一	一三	一
高知縣	一	一	一五	一	一五	一
福岡縣	一	一	一九	一	一五	一
大分縣	一	一	一三	一	一三	一
佐賀縣	一	一	一三	一	一三	一
熊本縣	一	一	一三	一	一三	一
宮崎縣	一	一	一四	一	一四	一
鹿兒島縣	一	一	一二	一	一二	一
沖繩縣	一	一	一六	一	一六	一
合計	一七	一三	一八五	三六、一〇三	四六三	二六〇
前年比較	九	一	七七	一三	九、七六四	二八〇

○帝國議會

○貴族院

○會議　昨二十四日ノ議事（議事日程第二十一號ノ經過左ノ如シ

請願委員長報告

右委員長三宅秀委員會ニ於ケル請願審査ノ報告ヲ爲ス

登錄稅法中改正法律案（政府提出衆議院送付）

右議案ハ委員長伯爵松平頼壽委員會ニ於ケル審査ノ報告ヲ爲シ次テ三讀會ノ順序ヲ省略シテ之ヲ可決ス

明治四十二年度歲入歲出總豫算追加案（第二號）

明治四十二年度特別會計歲入歲出豫算追加案（特第二號）

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件（追第一號）

右三案ハ之ヲ束ネテ委員長子爵曾我祐準委員會ニ於ケル審査ノ報告ヲ爲シ次テ三案共ニ之ヲ可決ス

明治三十七八年戰役ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案（政府提出衆議院送付）

右議案ハ委員長男爵赤松則良委員會ニ於ケル審査ノ報告ヲ爲シ次テ三讀會ノ順序ヲ省略シテ之ヲ可決ス

遠洋漁業奬勵法中改正法律案（衆議院提出）

右議案ハ政府ノ同意ヲ得テ議事日程ヲ變更シ之カ第一讀會ノ續ヲ開キ委員長村田保委員會ニ於ケル審査ノ報告ヲ爲シ次テ三讀會ノ順序ヲ省略シテ之ヲ修正議決ス

日本勸業銀行法中改正法律案（政府提出衆議院送付）

農工銀行法中改正法律案（政府提出衆議院送付）

北海道拓殖銀行法中改正法律案（政府提出衆議院送付）

右三案ハ之ヲ束ネテ委員長侯爵細川護成委員會ニ於ケル審査ノ報告ヲ爲シ次テ三讀會ノ順序ヲ省略シテ三案共ニ之ヲ可決ス

明治三十九年度歲入歲出總決算並明治三十九年度各特別會計歲入歲出決算

臨時軍事費歲入歲出決算

右決算ニ付委員長公爵二條基弘委員會ニ於ケル審査ノ報告ヲ爲シ次テ決算委員長ノ報告ヲ可決ス

衆議院議員選擧法中改正法律案（衆議院提出第三十六號）

右議案ハ選擧事件トシテ之カ審査ヲ衆議院議員選擧法中改正法律案（衆議院提出第八號）ノ特別委員ニ付託スルニ決ス

辯護士ノ職務竝判官檢察官及辯護士ノ在職年限ニ關スル法律案兩院協議委員ノ選擧

右兩院協議委員ノ選擧ハ議事日程ヲ變更シテ之ヲ加ヘ議長指名トナスニ決ス

商業會議所法中改正法律案（衆議院提出）

右議案ハ議事日程ヲ變更シテ之カ第一讀會ノ續ヲ開ク是ヨリ先キ議院ハ本案ノ審査報告ノ期限ヲ三月二十四日正午マテト議決シ委員ハ之カ審査ヲ了レリ而シテ委員長男爵德川厚委員會ニ於ケル審査ノ報告ヲ爲シ次テ第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヤニ付キ記名投票ヲ行ヒ之ヲ開クニ決シ引續キ第二、第三讀會ヲ開キテ之ヲ可決ス

會計法中改正法律案（衆議院提出）

右議案ハ委員長伯爵松木宗隆委員會ニ於ケル審査ノ報告ヲ爲シ次テ第二讀會ヲ開カサルコトヲ議決ス

用惡水井路敷潰地買上ニ關スル法律案（衆議院提出）

右議案ハ委員長江木千之委員會ニ於ケル審査ノ報告ヲ爲シ次テ第二讀會ヲ開カサルコトヲ議決ス

許可 7721 本文

獣疫豫防法中改正法律案（衆議院提出）
右議案ハ委員長男爵北垣國道委員會ニ於ケル審査ノ報告ヲ爲シ次テ第二讀會ヲ開カサルコトヲ議決ス
貴族院及衆議院速記技手恩給竝遺族扶助料ニ關スル法律案（衆議院提出）
右議案ハ委員長伯爵吉井幸藏委員會ニ於ケル審査ノ報告ヲ爲シ次テ第二讀會ヲ開カサルコトヲ議決ス
所得稅法中改正法律案（衆議院提出）
右議案ハ議事日程ヲ變更シテ之カ第一讀會ヲ開キ議長指名ノ特別委員ニ付託ス
新開紙法案（衆議院提出）
右議案ハ委員長男爵波多野敬直委員會ニ於ケル審査ノ報告ヲ爲シ次テ第一讀會ヲ了リ引續キ第二第三讀會ヲ開キテ之ヲ可決ス
郵便局設置ノ請願
右議案ハ議事日程ヲ變更シテ之カ第一讀會ヲ開キ議長指名ノ特別委員ニ付託ス
畜産專門學校設立ニ關スル請願
四國鐵道速成ノ請願
共同苗代ニ關スル請願
郡界變更ノ請願
秋田市水道國庫補助ノ請願
能樂奬勵ノ請願
宅地組換ノ請願
新津新發田間鐵道速成ノ請願
煙火ノ輸出ヲ挽回スル爲特別規程制定ノ請願
右十件ノ請願ハ總テ之ヲ採擇スルコトヲ議決ス

○國務大臣出席　桂内閣總理大臣兼大藏大臣、寺内陸軍大臣、小村外務大臣、齋藤海軍大臣、大浦農商務大臣、後藤遞信大臣、小松原文部大臣、岡部司法大臣ハ昨二十四日ノ會議ニ出席セリ

○議案奏上及通知　昨二十四日可決シタル左ノ議案ハ卽日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ
登錄稅法中改正法律案
明治四十二年度歲入歲出總豫算追加案（第二號）
明治四十二年度特別會計歲入歲出豫算追加案（特第二號）
豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件（追第一號）
又同日本院ハ左ノ衆議院提出案ニ對シ第二讀會ヲ開カサルコトヲ議決シタル旨ヲ衆議院ニ通知セリ
會計法中改正法律案
用惡水井路敷潰地買上ニ關スル法律案

明治三十七八年戰役ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案
日本勸業銀行法中改正法律案
農工銀行法中改正法律案
北海道拓殖銀行法中改正法律案
商業會議所法中改正法律案
新開紙法案
貴族院及衆議院速記技手恩給竝遺族扶助料ニ關スル法律案

○議案回付　昨二十四日修正議決シタル左ノ衆議院提出案ハ卽日之ヲ衆議院ニ回付セリ
遠洋漁業奬勵法中改正法律案
○議案提出　昨二十四日衆議院ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ
所得稅法中改正法律案
○請願書送付　昨二十四日採擇スルコトヲ議決シタル左ノ請願ハ各〻意見書ヲ附シ卽日之ヲ政府ニ送付セリ
郵便局設置ノ請願
畜産專門學校設立ニ關スル請願
四國鐵道速成ノ請願
共同苗代ニ關スル請願
郡界變更ノ請願
秋田市水道國庫補助ノ請願
○兩院協議會請求及通牒受領　昨二十四日衆議院ヨリ本院ノ回付セタル左ノ衆議院提出案ハ同院ニ於テ本院ノ修正ニ同意セサルコトニ決議セル旨ヲ以テ兩院協議會ヲ開クノ請求ヲ受ケ又同時ニ協議委員ノ數ヲ十名ト爲スニ決セル旨ノ通牒ヲ受領セリ
辯護士ノ職務竝判官評定官檢察官及辯護士ノ在職年限ニ關スル法律案
又同日衆議院ヨリ本院ノ回付ニ係ル左ノ衆議院提出案ハ同院ニ於テ本院ノ修正ニ同意シ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ
能樂奬勵ノ請願
宅地組換ノ請願
新津新發田間鐵道速成ノ請願
煙火ノ輸出ヲ挽回スル爲特別規程制定ノ請願
遠洋漁業奬勵法中改正法律案
又同日衆議院ヨリ左ノ成案ヲ否決セル旨ノ通牒ヲ受領セリ
辯護士ノ職務竝判官評定官檢察官及辯護士ノ在職年限ニ關スル法律案兩院協議會ノ成案
○報告書提出　昨二十四日特別委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ
商業會議所法中改正法律案否決報告書
民事訴訟法中改正法律案否決報告書
又同日兩院協議委員議長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ
辯護士ノ職務竝判官評定官檢察官及辯護士ノ在職年限ニ關スル法律案兩院協議會成案成立ノ報告書（兩院協議會成案ヲ具ス）
○兩院協議委員選定　昨二十四日議長ニ於テ兩院協議委員ヲ左ノ如ク選定セリ

辯護士ノ職務竝判官評定官檢察官及辯護士ノ在職年限ニ關スル法律案兩院協議委員

伯爵	德川	平山	成信
子爵	入江	爲守	
男爵	松平	正直	
男爵	北島	治房	

男爵	關	馬屋原	二郎
男爵	波多野	兒玉	淳一郎
	石渡	敏一	

○兩院協議委員議長副議長互選　昨二十四日兩院協議委員ニ於テ議長副議長ヲ互選セリ其結果左ノ如シ

男爵	關	馬屋原	二郎
男爵	波多野	敬直	

辯護士ノ職務竝判官評定官檢察官及辯護士ノ在職年限ニ關スル法律案

伯爵	德川	達孝	
男爵	波多野	敬直	

議長　副議長

○特別委員選定　昨二十四日議長ニ於テ特別委員ヲ左ノ如ク選定セリ

所得稅法中改正法律案特別委員

伯爵	大原	重朝	男爵 中島 久万吉
伯爵	大村	純雄	宮本 谷藏
男爵	北島	治房	宮田 鐵之助　澤原 俊雄
			仁尾 惟茂　下村長右衛門

○委員長副委員長互選　昨二十四日特別委員ニ於テ委員長副委員長ヲ互選セリ其結果左ノ如シ

裁判所構成法中改正法律案

委員長	子爵	黑田	和志
委員長	子爵	水野	壽巨
委員長	子爵	内田	正學
委員長	松岡	康毅	

民事訴訟法中改正法律案
鑛病豫防法中改正法律案
行政裁判所再審ニ關スル法律案

委員長	男爵	波多野	敬直
副委員長		奥山	政敬
副委員長		得能	通昌
副委員長	富井	政章	

○閉會式通牒受領　昨二十四日桂内閣總理大臣ヨリ今二十五日貴族院ニ於テ帝國議會閉會式執行被仰出候旨ノ通牒ヲ受領セリ

○衆議院

○會議　昨二十四日ノ議事經過左ノ如シ
明治三十九年度歲入歲出總決算及各特別會計歲入歲出決算
臨時軍事費歲入歲出決算
右兩決算ハ一括シテ院議ニ付シ院議花井卓藏ノ提出ニ係ル占領軍ノ爲タル收入支出ト雖モ國家ノ歲入歲出ナルヲ以テ其決算ハ帝國議會ニ提出スヘキモノトストノ動議ヲ否決シ次テ委員會ノ報告ヲ是認スルニ決ス
辯護士ノ職務竝判官評定官檢察官及辯護士ノ在職年限ニ關スル法律案（本院提出）
右議案ハ貴族院ノ修正ニ同意セス十名ノ協議委員（議長指名）ヲ設ケテ兩院協議會ヲ開クニ決ス
遠洋漁業奬勵法中改正法律案（本院提出貴族院回付）
右議案ハ議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ貴族院ノ修正ニ同意スルニ決ス
府縣制中改正法律案（委員長報告）
郡制中改正法律案（委員長報告）
右兩案ハ一括シテ院議ニ付シ院議其議決ヲ延期スルニ決ス
關稅定率法輸入稅表中改正法律案（森本駿外一名提出）
燐寸輸出交付金下付ニ關スル建議案（森本駿外一名提出）
右兩案ハ孰モ其議決ヲ延期スルニ決ス
北海道拓殖政策確立ニ關スル建議案（小橋榮太郎外五名提出）
右議案ハ修正議決ヲ爲ス
小學校敎科用圖書ニ關スル建議案（早川龍介外一名提出）

右議案ノ討議中日向輝武ヨリ瀧原惟郭ヲ懲罰委員ニ付スルノ動議ヲ提出シ院議先決問題トシテ之ヲ可決シ次テ本案ハ修正議決ヲ爲ス
織物消費稅取扱ニ關スル建議案（木村半兵衛外一名提出）
右議案ハ修正議決ヲ爲ス
辯護士ノ職務竝判官評定官檢察官及辯護士ノ在職年限ニ關スル法律案兩院協議會成案
右成案ハ議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ院議之ヲ否決ス
所得稅法中改正法律案（花井卓藏外一名提出）
右議案ハ議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ院議讀會ノ順序ヲ省略シテ之ヲ可決ス
曆法ニ關スル建議案（早川龍介外二名提出）
國有林野ヲ地方自治體ニ下付ニ關スル建議案（小川平吉外七名提出）
大船渡鐵道鐵業補給ニ關スル建議案（阿部磯三郎外二十九名提出）
右三案ハ孰モ修正議決ヲ爲ス
上越鐵道敷設ニ關スル建議案（日向輝武外十一名提出）
右議案ハ之ヲ可決ス
政府特別資金融通ニ關スル建議案（森園造外十二名提出）
右議案ハ議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ院議修正議決ヲ爲ス
（特別報告第一四四號）專門學校入學者檢定試驗改正ノ請願
（特別報告第一四五號）區裁判所出張所設置ノ請願
（特別報告第一四八號）鐵道運賃割引復舊ノ請願
（特別報告第一四九號）關稅法改正ノ請願
（特別報告第一五〇號）鐵道敷設ノ請願
（特別報告第一五一號）區裁判所事務開始ニ關スル請願
（特別報告第一五二號）舊幕府貸上金償還ノ請願
（特別報告第一五三號）大津神宮創設ノ請願
（特別報告第一五四號）プレード戻稅ニ關スル請願
（特別報告第一五五號）區裁判所出張所新設ノ請願
（特別報告第一五七號）沒祿同復ニ關スル請願
（特別報告第一五八號）秋田市水道國庫補助ノ請願
（特別報告第一五九號）能樂奬勵ノ請願
（特別報告第一六〇號）醸造試驗所設置ノ請願
（特別報告第一六一號）牛肉鑵詰煮汁拂下ニ關スル請願
（特別報告第一六二號）瀨戸物防法施行ニ對シ除外法追加ニ關スル請願
（特別報告第一六三號）郵便局設置ノ請願
（特別報告第一六四號）鐵道敷設ニ關スル請願外一件
（特別報告第一六五號）森林經營ニ關スル請願
（特別報告第一六六號）登記所出張所設置ノ請願
（特別報告第一六七號）滿洲興業銀行設立ノ請願
（特別報告第一六九號）郵便局設置ノ請願

官報 第七七二一號 明治四十二年三月二十五日（第三種郵便物認可）

（特別報告第一七〇號）稅務署設置ノ請願
（特別報告第一七一號）地租改正費償還ノ請願
（特別報告第一七二號）關稅輸入稅ニ關スル請願
右各請願ハ孰モ之ヲ採擇スヘキモノト決ス
（特別報告第一七三號）天理教獨立公認取消ノ請願
右請願ノ討議中大岡育造ヨリ懲罰委員會ハ二十四日午後六時マテニ其審査ノ結果ヲ報告セシムヘシトノ動議ヲ提出シ院議先決問題トシテ之ヲ可決シ次テ本請願ハ採擇スヘキモノト決ス
（特別報告第一七四號）綿物消費稅取締方法ニ關スル請願
（特別報告第一七五號）渡良瀬川沿岸地方特別地價再修正ノ請願
（特別報告第一七六號）登記所設置ノ請願
右三請願ハ孰モ採擇スヘキモノト決ス
藪原惟郭君懲罰事犯ノ件（委員會報告）
右議事日程終了ノ後祕密會ニ付シ院議謝辭ヲ表セシムルニ決ス
○國務大臣出席　桂内閣總理大臣兼大藏大臣、小村外務大臣、寺内陸軍大臣、松原文部大臣、大浦農商務大臣、後藤遞信大臣ハ昨二十四日ノ會議ニ於テ演說セリ
○國務大臣演說　寺内陸軍大臣ハ昨二十四日ノ會議ニ於テ演說セリ
○議案奏上及通知　昨二十四日貴族院ノ修正ニ同意スルコトヲ議決シタル左ノ本院提出案ハ貴族院ヨリ回付ニ付即裁可ヲ奏請シ又貴族院ノ修正ヲ可決セル旨ヲ同院ニ通知セリ
大船渡鐵道速成及鐵業製煉業ニ關スル建議書
上越鐵道敷設ニ關スル建議書
政府特別資金融通ニ關スル建議書
○建議書送付　昨二十四日左ノ建議書ヲ政府ニ送付セリ
北海道拓殖政策確立ニ關スル建議書
小學校敎科用圖書ニ關スル建議書
織物消費稅取扱ニ關スル建議書
厘法ニ關スル建議書
國有土地森林原野ヲ地方自治體ニ下付ニ關スル建議書
○答辯書受領　昨二十四日政府ヨリ左ノ答辯書ヲ受領セリ
臺灣拓殖政策及臺灣關稅統一ニ關スル件（平田內務大臣、寺內陸軍大臣）
遊廓濫設ニ關スル件（平田內務大臣）
國務大臣ノ資格及其發言ノ責任ニ關スル件（桂內閣總理大臣）
政府委員ノ發言ノ責任ニ關スル件（桂內閣總理大臣）
政機運用ノ基本意思ニ關スル件（桂內閣總理大臣）
韓國統監政治ニ關スル件（桂內閣總理大臣）
國民ノ權利及議會ノ體面ニ關スル件（平田內務大臣）
米國桑港ノ震災ニ付日本人罹災者救濟ニ關スル件（小村外務大臣）
北米合衆國製茶課稅ニ關スル件（桂大藏大臣、小村外務大臣、大浦農商務大臣）
破憲破道ニ關スル件（平田內務大臣）
北海道室蘭支廳ニ係ル國有未開地處分ニ對スル件（平田內務大臣）
別子千原兩鑛山煙害ニ關スル件（大浦農商務大臣）
占領軍ノ爲シタル收入支出ノ性質竝ニ決算ニ關スル件（桂大藏大臣、寺內陸軍大臣）
宮內大臣ノ失行ニ關シ國務大臣ノ責任ニ關スル件（桂內閣總理大臣）
○委員長及理事　所得稅法中改正法律案
委員長　吉植庄一郎　理事　村田虎次郎
○兩院協議委員選定　昨二十四日議長ニ於テ兩院協議委員ヲ左ノ如ク選定セリ
辯護士ノ職務竝判官評定官檢察官及辯護士ノ在職年限ニ關スル法律案
鳩山和夫　秦�fi　岡田靜一　世良松田　源治
花井卓藏　齋藤二郎　高柳榮次郎
副議長　花井卓藏
○兩院協議會議長及副議長　昨二十四日兩院協議會議長及副議長互選ノ結果左ノ如シ
議長　鳩山和夫
副議長　花井卓藏
○閉會式通牒受領　昨二十四日桂內閣總理大臣ヨリ今二十五日貴族院ニ於テ帝國議會閉會式執行被仰出候旨ノ通牒ヲ受領セリ

○在外公館報告

○マニラ傳染病狀況　マニラニ於ケル傳染病狀況ニ付キ在同地領事館事務代理外務書記生龜命金次郎ヨリ本月三日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ　本月十日本欄內參看
（外務省）
二月十四日ヨリ二十七日ニ至ル二週間ニマニラ市傳染病患者數左ノ如シ

病名	本年一月一日以降	最近二週間	死亡數	全快數	入院中
天然痘	四	九	五		二
（備考）天然痘患者死亡數ニハ昨年發生患者一ヲ含ム					

○新嘉坡石炭市況　新嘉坡ニ於ケル石炭市況ニ付キ同地駐在領事鈴木榮作ヨリ本月一日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ　去月十三日參看（外務省）
本年一月十五日ヨリ二月十五日ニ至ル當地ニ於ケル石炭市況概要左ノ如シ
市況　澳洲炭ハニューカッスル、輸入新嘉坡間運賃六片方臨時騰貴シ從テ同炭新嘉坡神著値段モ亦上昇セルニ拘ラス競爭炭タル日本炭ノ輸入船便缺乏ノタメ減少セルニ乘シ相應ノ出荷アルト同時ニ取引亦可ナリナリキ
日本炭ハ船便缺乏ノタメ運賃暴騰從テ炭價手堅ク臨時賣ト雖キ目下繩張ノ模樣ナリ
「ボルネオ」炭ハ本期中各種炭價ノ暴騰セルニ際シ需要者タル船主側ハ炭種ノ良否ヨリモ噸口廉價ナルモノヲ選フノ傾向アルタメ低廉ナル同炭ハ獨リ相當ノ輸入アル模樣ナリ
輸出入高　本期間集散ノ各種炭ノ數量及在荷高左ノ如シ

種類	輸入高	輸出高	在荷高
日本炭	三、三八〇噸	一、八九〇噸	一、四九〇噸
英炭	七、一七四	二、三四五	四、八二九
印度炭	六、八四七	四、三二四	二、七二三
相場及運賃　本期中相場ノ變動ハ前項市況ニ述ヘタル所ニシテ今二月十五日ニ於ケル當地神著相場及船渠値段併ニ其運賃ヲ示セハ左ノ如シ			

種類	場所	相場	運賃
英炭	神著	ガーデフ 噸 二六－一二	
	機橋	新嘉坡 噸 二六－一二	
濠洲炭	同	ニューカッスル 噸 八六	
	同	新嘉坡 噸 一〇五	

爲替相場　本期間爲替相場變動ノ模樣左ノ如シ

地名	單位	一月二十日	同二十七日	二月三日	同十日	同十七日
横濱	圓	二三六	二三六	二三六	二三六	二三六
倫敦	志	二三六	二三六	二三六	二三六	二三六
加爾各答	盧比	一七四	一七四	一七四	一七四	一七四
香港	圓	二三六	二三六	二三六	二三六	二三六
上海	圓	二三六	二三六	二三六	二三六	二三六

○紐育棉花市況　紐育ニ於ケル棉花、生絲及綿花市況ニ付キ同地駐在總領事水野幸吉ヨリ一昨二十三日發ヲ以テ左ノ如ク電報アリ　本月十八、二十兩日本欄內參看
（外務省）
關稅法案提出ノ前日本標準糸十六仙半、臺灣糸十四仙ナリシモノ本日ノ相場二十三仙及十九仙ト爲レリ目下在荷極テ少シ糸課稅ニ付キテハ目今情勢反對運動功ヲ奏スルヤ否ヤ疑問ナリ生絲市況關稅問題未定等ノタメ影響ヲ受ケ依然靜ニ綿花先物市場動搖勝ナリシカ本日ニ至リ稍ヽ建直シノ氣配統計局ノ報告ニ據レハ昨年全國綿花產額ハ一三四〇八八四一俵ナリ　本日引值五月九、三四、七月九、二三、十月九、一四、十二月九、一〇、在荷百三十一万七千餘俵

○觀象

○全國天氣概報　自三月二十四日午後六時至三月二十五日午後六時　二十四時間ノ天氣概況

第一區	北東ノ風概ネ曇ヤレトモ雨模樣アリ
第二區	北西ノ風概ネ晴
第三區	同上
第四區	北西ノ風概ネ曇
第五區	同上
第六區	同上

○東京地方天氣豫報　北西ノ風晴
○暴風警報　三月二十四日午前九時一乃至四區ノ警戒ヲ解ク
○東京觀象
三月二十三日

		平均	最高	最低
氣壓（海面ノ度）	平均	七六八・一粍		
氣溫	平均（平年ヨリ二・六度低シ）	四・六度		
	最高	六・二度		
	最低	三・三度		
濕度	平均	八四・六％		
水蒸氣張力	平均	五・三粍		
雲量	平均	一〇・〇		
日照時間		〇・〇時		

	平均速度	最多方向	最大速度
風	三・五米	北北西	五・二米
降水	總量	一時間最大量	
	一・四粍	〇・五粍	
蒲田觀象所	總時間	最強時間	
	午前零時零五分ヨリ同三時四十五分マテ微雨ニシテ後同三時四十五分ヨリ同六時四十分マテ同八時四十分ヨリ同十時五十五分マテ微雨又十時五十五分ヨリ午後五時十三分マテ微雨更ニ午後十時四十分ヨリ微雨翌日ニ及ル		

（以上中央氣象臺）

○廣告

○收容貨物

左記貨物ハ本關ニ收容後滿六箇月ヲ經過シタルモノニ付キ關稅法第五十條ニ依リ公告ス

明治四十二年三月

橫濱稅關

收容年月日	記號箇數	品名		
22/9/41	n/m	Bags 2	Wheat	
〃	〃	Bdle 1	Angle iron	
〃	〃	Pieces 1	Rail	

本文ノ終リ

〃	〃	Bags 3	Old iron
〃	〃	Piece 1	Part of Machinery
〃	〃	Tin 1	Unknown
〃	(mark) M.B.K.	Casks 2	〃
〃	〃	Cask 1	〃
〃	A 217 G or n/m	〃 1	〃
〃	n/m	P'ces 15	Part of Machinery Casting
〃	n/m	Piece 1	Spelter
〃	〃	B'dle 1	Iron Nut
〃	〃	Bar 1	Iron
〃	〃	P'ces 11	Old iron
〃	〃	B'dle 2	〃
〃	〃	Cask 1	Unknown
〃	〃	〃 1	Part of Machinery
〃	C. a. Chidell	1	Chair

記番號　恩す　八六七三　預ケ人氏名　坂井　彦治

左記證券保管通帳亡失ニ付キ自今無效トス但シ其所在ヲ發見シタルトキハ速ニ郵便爲替貯金管理所ニ通報スヘシ

明治四十二年三月　郵便爲替貯金管理所

○證券保管通帳亡失

○購買入札

第一號　大麥　七百二石
第二號　燕麥　四百四十八石
第三號　大豆　百六十五石
第四號　藁　十四万七千貫匁
以上青森縣上北郡七戸町奥羽種馬牧場納

以上入札保證金每號各自見積價格百分ノ五以上

右購買ス入札望ノ者ハ奥羽種馬牧場ニ就キ入札手續、契約心得及見本品等熟覽ノ上來ル四月八日午前十時入札書ヲ同場ニ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ奥羽種馬牧場長安井淳之助擔任ス

明治四十二年三月二十五日　馬政局

一「アスベスト」類　四點
一革管　十點
一革類　十三點
一印肉類　二點
以上上野及兩國橋納
一生子板類　四點　上野及本所納
一陶器類　四點
一疊表類　三點
以上上野納

以上入札保證金賣買總代金百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

右購買ス入札望ノ者ハ當局計理課ニ就キ入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上來ル四月九日午前十一時限入札書ヲ同課ニ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ東部鐵道管理局長長谷川謹介擔任ス

明治四十二年三月二十五日　東部鐵道管理局

一「ランプ」及屬品　二十點
一狀袋類　二十點
一本綴帳簿　八點
一罫引用紙　七點
一手帳及道券類　十三點
一洋紙印刷物　八點
一和紙印刷物　十五點
一製圖用紙類　十五點
一革類　十二點
一帆布製水管　七點
以上神戸納

以上入札保證金賣買總代金百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

右購買ス入札望ノ者ハ當局計理課ニ就キ入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上來ル四月九日午前十一時限入札書ヲ同所ニ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ西部鐵道管理局長岩崎彦松擔任ス

明治四十二年三月二十五日　西部鐵道管理局

一帳簿類　三十五點
一文具類　二十九點
一藥品類　三十四點
以上新橋納

以上入札保證金賣買總代金百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

右購買ス入札望ノ者ハ當局計理課ニ就キ入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上來ル四月八日午前十一時限入札書ヲ同課ニ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ中部鐵道管理局長古川阪次郎擔任ス

明治四十二年三月二十五日　中部鐵道管理局

一裝蹄用器械類外七十一點

入札保證金各自見積金百分ノ五以上（圓未滿切上ク）ヲ開札當日午前九時三十分マテニ差出スヘシ

右購買ス入札望ノ者ハ今二十五日ヨリ來ル四月八日マテ（執務時間中）ニ當校ニ就キ入札心得書、契約書案及標本等熟覽ノ上同九日午前十時限當校ニ入札スヘシ即時開札ス

此契約ハ陸軍獸醫學校長獸醫學博士今泉六郎擔任ス

明治四十二年三月二十五日　陸軍獸醫學校

一牛肉　三万八千貫匁

入札保證金各自見積代金百分ノ五以上（圓未滿圓位ニ切上ク）

右購買ス入札望ノ者ハ當廠ニ就キ入札心得書、契約書案及標本等熟覽ノ上本月三十一日午前十一時限當廠ニ入札スヘシ同時開札ス但シ郵便入札ヲ許ス

此契約ハ陸軍糧秣本廠長梶塚鍋太郎擔任ス

明治四十二年三月二十五日　東京市深川區越中島町　陸軍糧秣本廠

第一號　鐵製寢臺　百五十箇　野砲兵第二聯隊納
第二號　同　二百三十七箇　輜重兵第二大隊納

以上入札保證金各自見積金高百分ノ五以上、契約保證金落札價格百分ノ十以上、入札者ハ二年以來引續キ軍隊官衙ノ物品供給又ハ金物販賣業ニ從事スル旨都市區町村長ノ證明アル者ニ限ル此證明書ハ來ル四月八日マテニ當部ニ差出スヘシ

右購買ス入札望ノ者ハ今二十五日ヨリ來ル四月八日マテノ內當部ニ就キ入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上同九日午前十時限當部入札函ニ入札スヘシ即時開札ス

此契約ハ第二師團經理部長小倉美佐雄擔任ス

明治四十二年三月二十五日　第二師團經理部

一生粘土　十五万瓩
一和銀砂　百二十万瓩
一亞鉛板　五千瓩
一「アルコール」　八千瓩
一內部用礦油　一万二千瓩
一石油　千石
一和「ガニスター」　五十万瓩
一柔質鋼板　三百枚

以上入札保證金各自見積代價百分ノ五以上、入札者ハ二年以來繼續シ且ツ現實其營業ニ從事スル證明書ヲ有スル者ニ限ル

右購買ス入札望ノ者ハ當部計算課ニ就キ契約書案及入札人心得書等熟覽ノ上來ル四月八日マテニ營業證明書ヲ差出シ同九日午前十一時限入札スヘシ同時當部ニ於テ開札ス

此契約ハ吳海軍工廠會計部長島山顯二擔任ス

明治四十二年三月二十五日　吳海軍工廠會計部

一　裝飾「タイル」　三千六百四十枚
二　二號直列複式交換機　一臺
三　二十箇附四十二號「ジャック」（新增設用）　七百一枚外二點
四　二分ノ一「キロワット」直流發電機　四臺
五　三千回線中間配線盤　三臺
以上東京納

以上入札保證金每廉各自見積價格百分ノ五以上

右購買ス入札望ノ者ハ入札前日マテニ當局調度課用度係ニ就キ見本、仕樣書、入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上來ル四月九日午前十一時マテニ入札保證金ヲ納入シ同日午後一時限入札スヘシ即時同課ニ於テ開札ス

此契約ハ遞信省經理局長町田重備擔任ス

明治四十二年三月二十五日　遞信省經理局

第一號　電話加入申込書外式紙類百三十二點　第二號　郵第十號外式紙類百四點

以上入札保證金每號各自見積額百分ノ五以上（圓未滿切上ク）入札者ハ二年以來其營業ニ從事シ且ツ明治四十一年五月遞信省令第二十四號ノ資格ヲ備フルヲ要ス

右購買ス入札望ノ者ハ來ル四月八日マテニ當局會計課ニ就キ見本、仕樣書、入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上同九日午前十一時限入札書ヲ差出スヘシ即時同課ニ於テ開札ス

此契約ハ京都郵便局長杉精三擔任ス

明治四十二年三月二十五日　京都郵便局

○購買及請負入札

一號　切込砂利　千立坪　宇都宮步兵第五十九聯隊構內納入及其敷設
二號　同　三百二十七立坪　宇都宮步兵第六十六聯隊竝ニ衛戍病院構內納入及其敷設但シ土壤運搬五十立坪トモ敷設
三號　同　三百七十五坪
　　　栗石　百六十立坪　｝宇都宮騎兵第十八聯隊構內納入及其敷設
四號　切込砂利　百八十七立坪　同砲兵第二十聯隊構內納入及其敷設
五號　同　四百十立坪　同西原町河內郡城山村字駒生間道路指定地納入及其敷設
六號　同　九百八十八立坪五合　甲府步兵第四十九聯隊及衛戍病院構內納入及其敷設

以上入札保證金各自見積金高百分ノ五以上、契約保證金請負金高百分ノ十、入札者ハ滿二年以上引續キ其業ニ從事セル旨市區町村長ノ證明アル者ニ限ル此資格證明書ハ入札前日マテニ、入札保證金ハ入札當日午前十時マテニ當部宇都宮出張所及甲府出張所ニ差出スヘシ

右供給及請負望ノ者ハ明後二十七日ヨリ本月三十日マテニ當部及宇都宮甲府出張所ニ就キ入札心得、契約書案、注文書及現場熟覽ノ上來ル四月一日午前十一時該兩出張所ニ入札スヘシ即時開札ス

此契約ハ臨時陸軍建築部東京支部長石山三造擔任ス

明治四十二年三月二十五日　東京市麴町區永田町一丁目八番地　臨時陸軍建築部東京支部

○請負入札

一　五十磅硬銅線　四千五百貫外一點　東京納

入札保證金各自見積價格百分ノ五以上

右雜銅線ヲ以テ改造ス請負望ノ者ハ入札前日マテニ當局調度課用度係ニ就キ仕樣書、入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上來ル四月九日午前十一時マテニ入札保證金ヲ納入シ同日午後一時限入札スヘシ即時同課ニ於テ開札ス

此契約ハ遞信省經理局長町田重備擔任ス

明治四十二年三月二十五日　遞信省經理局

○工事請負入札

一　千葉鐵道聯隊器具材料庫新築其他工事

入札保證金各自見積金高百分ノ五以上、契約保證金請負金高百分ノ十、入札者ハ滿二年以上引續キ其業ニ從事シ明治四十一年陸軍省令第十三號ノ資格アル旨市區町村長ノ證明アル者ニ限ル此資格證明書ハ入札前日マテニ　入札保證金ハ入札當日午前十時マテニ當部千葉出張所ニ差出スヘシ

右請負望ノ者ハ明後二十七日ヨリ本月三十日マテニ當部千葉出張所ニ就キ入札心得、契約書案、設計圖面及現場熟覽ノ上來ル四月一日午前十一時當部及千葉出張所ニ入札スヘシ即時開札ス

此契約ハ臨時陸軍建築部東京支部長石山三造擔任ス

明治四十二年三月二十五日　東京市麴町區永田町一丁目八番地　臨時陸軍建築部東京支部

一　陸軍騎兵實施學校及陸軍獸醫學校各建物新增移築其他工事

入札保證金各自見積價格百分ノ五以上（圓未滿切上ク）入札者ハ滿二年以上其業ニ從事シ且ツ二年以上引續キ直接國稅金百圓以上（合名會社ハ其社員ノ納稅額ヲ合算ス）ヲ納付シタル者竝ニ合資會社、株式會社及株式合資會社ニ在リテハ資本金三十万圓以上ノ拂込ヲ終リタル旨市區町村長ノ證明セル者ニ限ル

右請負望ノ者ハ當部ニ就キ入札心得書、契約書案、仕樣書、圖面及現場等熟覽ノ上資格證明書ハ入札前日マテニ入札書ハ來ル四月一日午前十時限當部ニ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ第一師團經理部長青柳忠次擔任ス

明治四十二年三月二十五日　第一師團經理部

○入札拂下

第一號　綿入病衣十五箇外四點　｝若松步兵第六十五聯隊廢品被服
第二號　病綿二千七百二十五箇外三點

以上入札保證金各自見積價格百分ノ五

右賣却ス買受望ノ者ハ本月二十五日ヨリ來ル四月八日マテ（執務時間中）ニ前記部隊ニ就キ入札心得書、契約書案及現品熟覽ノ上同九日午前十時限入札書ヲ步兵第六十五聯隊ニ差出スヘシ　即時開札ス但シ郵便入札ヲ許ス

此契約ハ第二師團經理部長小倉美佐雄ノ委任ニ依リ步兵第六十五聯隊長飯島穆擔任ス

明治四十二年三月二十五日　第二師團經理部

○入札拂下公告中取消

本月十三日本欄內掲載當部入札拂下公告中　第四號山砲兵第一大隊下肥　及第八號　同隊馬糞ノ　二廉ハ取消ス

明治四十二年三月二十五日　第二師團經理部

○林野賣拂

昨二十四日本欄內掲載長野大林區署公告ノ續

第五六一號
同縣同郡川治村大字北新田第九三四番　字大久保國有林
臺帳面積一畝歩
一面積九畝一歩
第五六二號
同上大字八箇丙第一二二番字井向國有林
臺帳面積一畝二歩
一面積八歩
第五六三號
同上乙第一二二番字カト田國有林
臺帳面積二〇歩
一面積八歩
第五六四號
同上甲第一九七番字三斗內國有林
臺帳面積三畝六歩
一面積一畝七歩
第五六五號
同上大字川治第三五五六番　字坂ノ上國有林（上地林）
臺帳面積二段三畝九歩
一面積二段九畝二三歩
一杉八二本　材積一七〇尺〆七〇
一松一本　同上二尺〆六九
一雜木五本　同上〇棚五四
第五六六號
同縣東蒲原郡東川村大字大倉乙第四八四番字三坂澤國有林
臺帳面積一畝一四歩
一面積八畝一〇歩
一粗朶材積一五束
第五六七號
同上乙第五七七番乙第五五八番字三坂澤國有林
臺帳面積四畝一九歩
一面積五畝一一歩
一雜木三本　材積〇棚二三八
第五六八號
同上乙第四八三番字三坂澤國有林
附帶義務　明治三十一年四月ヨリ　同四十二年三月マテ耕作地トシテ本村增井傳藏ヘ貸付
臺帳面積一畝一一歩
一面積五畝二八歩
第五六九號
同上乙第四九〇番字三坂澤國有林
臺帳面積一畝歩
一面積三畝二歩
一雜木二本　材積〇棚三四
第五七〇號
同上乙第六〇九番乙第六一〇番字山田國有林
臺帳面積四段六畝九歩
一面積一段四畝一四歩
第五七一號
同上乙第六〇八番ノ一乙第六〇八番ノ二　字山田國有林
臺帳面積七畝二〇歩
一面積八畝五歩
第五七二號
同上乙第六〇八番ノ三字山田國有林
附帶義務　明治三十一年四月ヨリ　同四十二年三月マテ本村增田傳藏ヘ貸付
臺帳面積七畝二〇歩ノ內
一面積七畝一四歩
第五七三號
同上乙第五八四番字山田國有林
臺帳面積一段一畝
一面積一段二畝七歩
第五七四號
同上乙第六八〇番字山田國有林
臺帳面積五段歩
一面積二段一畝二四歩
一雜木八本　材積〇棚九〇

第7721호 本文

明治四十一年三月二十五日

廣島大林區署

（未完）

第7721号　本文

○林野賣拂公告中訂正

（承前）

明治四十一年三月二十五日

東京大林區署

○商業登記

第七七二一号　本文

○法人登記

○産業組合登記

○準禁治産宣告

○公示催告

○相續財産管理人選任

○失踪宣告

第7721号　本文

○華族世襲財産

○日本銀行

○臺灣銀行券發行週報

○債券償還當籤

○天文

○天氣

○廣告

官報　號外　明治四十二年三月二十五日　木曜日　印刷局

○帝國議會

○本日帝國議會閉會式勅語左ノ如シ

朕貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク

朕本日ヲ以テ帝國議會ノ閉會ヲ命シ併セテ卿等勵精克ク協贊ノ任ヲ竭セルノ勞ヲ嘉奬ス

官報號外　明治四十二年三月二十五日（明治二十五年三月三十一日第三種郵便物認可）

物価号外